

令和元年度 事業報告

一人ひとりを認めあい、支えあう、おおらかなまち“大津”
を目指して、市民・当事者が主体の福祉のまちづくりを進めます

目標1) 多様なネットワークの力で市民のニーズを広く受け止め解決する体制づくり

目標2) 一人ひとりが生きる力を高めあい支えあえる地域コミュニティづくり

目標3) 新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり

社会福祉法人

大津市社会福祉協議会

目 次

1. 総括	2
2. 会務の運営	5
(1) 理事会の開催	
(2) 評議員会の開催	
(3) 監事会の開催	
(4) 評議員選任・解任委員会の開催	
(5) 常任理事会の開催	
(6) 第三者委員会の開催	
(7) 賛助会費や寄付金等の自主財源の確保	
(8) 第5次地域福祉活動計画の推進	
(9) 大津市社協職員プロジェクトの立ち上げ	
3. 活動の目標と具体的事業	8
目標1) 多様なネットワークの力で市民のニーズを広く受け止め解決する体制づくり	
1-1 情報を必要な人に届ける取り組みの充実	
1-2 市民が気軽に相談できる体制づくりとより積極的なニーズの把握	
1-3 相談を受け止め、対応する力の向上	
1-4 コーディネーション力の高い専門職の充実	
1-5 権利擁護支援の充実	
1-6 大津市における地域包括ケア体制の構築	
目標2) 一人ひとりが生きる力を高めあい支えあえる地域コミュニティづくり	42
2-1 福祉学習の推進	
2-2 生きる力を育む場づくり	
2-3 小地域における福祉のまちづくりの基盤強化	
2-4 災害時にも強い支援体制づくり	
目標3) 新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり	68
3-1 ボランティアやNPO活動の推進	
3-2 新しい参加者を巻き込んでいく取り組みの推進	
3-3 地域で活動している人や団体の新しいつながりづくり	
3-4 地域福祉を協働で進める取り組みの推進	

令和元年度 社会福祉法人大津市社会福祉協議会 事業報告

1. 総括

本会では、第5次地域福祉活動計画の理念である、『一人ひとりを認めあい、支えあう、おおらかなまち“大津”』を目指して、平成31（令和元）年度は「財源確保の改善や共同募金の改革」、「生活支援体制整備事業の推進」、「ボランティアセンター・災害ボランティアセンターの運営」、「施設連絡会の運営」、「生活困窮者自立相談支援事業の充実」、「地域福祉権利擁護事業の推進」、「ファミリーサポートセンターの運営」の7点を重点項目として、市民・当事者が主体の福祉のまちづくりを進めた。

また、昨年8月に大津市で実施された「事業レビュー」において、大津市から本会に対して交付されている補助金が評価対象とされ、審議員・市民評価員から補助金の有り様について「改善を要する」という判断が示された。

これを受け、大津市では令和2年度に補助金交付基準を見直す考えを示したところである。そこで本会としても、この市の考え方に対応するため、各種事業の整理・統合を図るとともにこれまで以上に自主財源を確保し、主体的に事業を企画実施できる態勢を創設することが市民に期待に応えるものであるとの認識のもと、「経営指針」を策定した。

この指針は、「財務体質の改善」「人材育成と組織の活性化」「新しい視点による事業の創設」「事務の効率化と経費削減」の4本柱から構成されるものであり、今後の本会の経営の有り様を示すものといえる。

さらに、この「事業レビュー」を契機として、社協のPR動画を作成するとともに、これまで本会が取組んできた地域福祉の実践活動を纏めた「見える社協から、魅せる地域福祉へ」という本も出版した。

また、令和2年2月から猛威を振るい続ける新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防対策として、年度末の事業や会議について中止を余儀なくされただけでなく、外出自粛等による減収者への緊急小口貸付対応が始まり、担当グループや課を超えた、組織全体での取り組みとなった。

以下、重点項目ごとに報告する。

- (1) 「財源確保の改善や共同募金の改革」として、人事管理や収益向上、経費削減を目指した職員プロジェクトを立ち上げ検討を進めた。また、減り続けている共同募金について、減少に歯止めをかけるべく、収益向上プロジェクトの一環として、新たな寄付者発掘のモデル実施や共同募金チャレンジ事業を通じた新たな参加者と共同募金の見える化を進めた。

5次計画の2-2「生きる力を育む場づくり」にむけて、地域で手助けや気遣いの気運を高め、お互いに地域での生活を支えていけるよう、地域に応じた活動づくりを支援した。

- (2) 「生活支援体制整備事業の推進」として、地域の社会資源であるふれあいサロンや助け合い活動などの生活支援サービスに係る情報を「高齢者の暮らし寄り添い帖」として保健福祉ブロックごとにまとめ、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などの専門職が高齢者に紹介できるよう作成した。また昨年度に引き続き、退職シニアの男性を対象に、地域福祉担い手養成講座を開催したところ、修了後は地域の福祉施設などへのボランティアグループとして活動していきたいとの意見が出た。

5次計画の1-6「大津市における地域包括ケア体制の構築」にむけて、市民と専門職同士、

また、市民と専門職等のネットワークを強化し、困難を抱えている人に必要な支援を提供できるよう、地域での助けあい、支えあい活動を把握するとともに、生活支援におけるコーディネート機能を充実した。

(3) 「ボランティアセンター・災害ボランティアセンターの運営」では、おおつボランティア情報システムを活用し、登録グループや出張ボランティアを可視化することで、活動の場やボランティアの新たな担い手が拡大した。災害ボランティアセンターでは、災害ボランティア事前登録者に対して、災害時の支援を迅速・的確に進めるため、災害ボランティア活動に対する一定の知識と技量を高めることを目的として、養成講座を開催した。また、新たに防災出前講座を実施し、最新の防災情報、大津市災害ボランティアセンターの活動内容、本会の事業等を啓発することで、地域福祉の推進や各々の防災対策の一助となった。5次計画の2-4「災害時にも強い支援体制づくり」にむけて、非常時の被災者支援活動を円滑に進めるため、平常時から各種団体との連携を強化するとともに、ネットワークを構築し、研修や訓練を継続的に行うなど、非常時にセンターの機能が速やかに発揮できるよう取り組んだ。

(4) 「施設連絡会の運営」では、生活困窮者やひきこもりの支援、支援を必要とする子どもたちの居場所づくり、高齢者等の安心を支援する事業などに取り組んだ。また、学区社協と福祉施設が顔の見える関係を構築するために、共同の会議や研修会を開催した。5次計画の3-4「地域福祉を協働で進める取り組みの推進」にむけて、支援が必要な高齢者や障害のある人、子育て家庭等へ、適切な支援策を見出すため、市内福祉施設とのネットワークを構築した。また、地域支援と専門支援を融合した多職種間による地域福祉推進力の拡大を図ることにより、新しい日常生活支援のあり方を検討した。

(5) 「生活困窮者自立相談支援事業の充実」では、生活困窮者自立相談支援事業、生活福祉資金貸付事業、ふれあい相談事業、子ども若者総合相談窓口事業などを通して、個人や家族の様々な状況に関する情報収集を行い、困難状況を把握し支援を行った。とくに、生活困窮の相談が増加していることから、グループ全体で生活困窮者自立相談支援事業の充実を図った。また、福祉施設と連携したお仕事体験会を通して、就労体験先の拡充及び就労定着に向けたフォローアップを行った結果、一般就労につながる相談者も出てきた。そんな中、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急小口貸付への対応に追われることとなった。5次計画の1-2「市民が気軽に相談できる体制づくりとより積極的なニーズの把握」にむけて、支援につながりにくいさまざまな生活課題を受け止めるとともに、地域に出向き課題の掘り起こしや地域のニーズ把握に努めた。

(6) 「地域福祉権利擁護事業の推進」としては、福祉サービスの利用援助、日常の金銭管理サービス、書類等預かりサービス、権利侵害・権利擁護支援にかかる相談援助業務、事業実施に伴う関係機関との連携及び支援調整、法人後見業務との一体的な取り組みを行った。あわせて、地域の中で安心して暮らせるため、地域における相談支援ネットワークの充実と柔軟な連携が図れるよう地域・ボランティア支援グループ、自立支援グループなど部門間での連携の強化を図った。5次計画の1-5「権利擁護支援の充実」にむけて、虐待を受け、個人の権利が侵害されないよう、高齢者や障害のある人への支援や高齢化社会を見据えた権利擁護の取り組みを充実

させ、要支援者一人ひとりの権利が守られる体制を整備した。

(7) 「ファミリーサポートセンターの運営」では、例年子どもの送り迎えや一時預かりの活動が多いが、最近では母親が在宅時の育児サポートが増加しており、育児不安・社会不安を抱えておられることもうかがえる。つまり、家族機能の低下、地域課題の多様化・複雑化する中で、制度の狭間を埋める社会資源として期待されており、共助の実践事例のひとつになっている。

5次計画の2-2「生きる力を育む場づくり」にむけて、一人ひとりが自己責任ではなく、普段から「助けて」と言いあえる関係づくりを進めた。

2. 会務の運営

(1) 理事会の開催

◆第1回理事会	令和元年5月31日(金) 10:00~11:05 (理事12名出席)
議案第1号	平成30年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会の事業報告及び決算の承認について
議案第2号	令和元年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会理事候補者及び監事候補者の選任について
議案第3号	顧問の就任について
議案第4号	定時評議員会の開催について
議案第5号	評議員選任・解任委員会の開催について
報告事項	会長及び常務理事の職務の執行状況について
◆第2回理事会	令和元年6月18日(月) 13:30~13:45 (理事14名出席)
議案第6号	社会福祉法人大津市社会福祉協議会評議員の補充選任について
◆第3回理事会	令和元年9月30日(月) 決議の省略が同意され書面決議
議案第7号	社会福祉法人大津市社会福祉協議会評議員の補充選任について
◆第4回理事会	令和2年年2月3日(月) 10:00~11:15 (理事13名出席)
議案第8号	社会福祉法人大津市社会福祉協議会職員給与規程改正について
議案第9号	令和元年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支補正予算について
議案第10号	社会福祉法人大津市社会福祉協議会評議員選任・解任委員会運営細則の一部改正について
議案第11号	社会福祉法人大津市社会福祉協議会評議員候補者の選任について
議案第12号	社会福祉法人大津市社会福祉協議会評議員選任・解任委員会の開催について
議案第13号	評議員会の開催について
報告事項	会長及び常務理事の職務の執行状況について
◆第5回理事会	令和2年3月11日(水) 10:00~11:20 (理事12名出席)
議案第14号	令和元年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支補正予算について
議案第15号	社会福祉法人大津市社会福祉協議会「経営指針」の策定について
議案第16号	令和2年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会事業計画について
議案第17号	令和2年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支予算について
議案第18号	評議員会の開催について
報告事項	宮城県南三陸町社会福祉協議会との災害時相互応援協定の締結について 人事制度構築支援業務公募型プロポーザル実施の結果について 会長の専決処分について 嘱託職員及び臨時職員の賃金等に関する規程の一部改正について 嘱託職員等就業規則及び臨時職員等就業規則の一部改正について

(2) 評議員会の開催

◆第1回評議員会 令和元年6月18日(火) 10:00~10:50 (評議員13名出席)
議案第1号 平成30年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会の事業報告及び決算の承認について
議案第2号 理事及び監事の選任について

◆第2回評議員会 令和2年2月17日(月) 10:00~11:00 (評議員12名出席)
議案第3号 平成30年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支補正予算について

◆第3回評議員会 令和2年3月25日(水) 10:00~11:15 (評議員11名出席)
議案第4号 令和元年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支補正予算について
議案第5号 社会福祉法人大津市社会福祉協議会「経営指針」の策定について
議案第6号 令和2年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会事業計画について
議案第7号 令和2年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支予算について
報告事項 宮城県南三陸町社会福祉協議会との災害時相互応援協定の締結について

(3) 監事会の開催

◆第1回監事会 令和元年5月17日(木) 9:30~ (監事2名出席)
平成30年度 社会福祉法人大津市社会福祉協議会事業報告について
平成30年度 社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支決算報告について

(4) 評議員選任・解任委員会の開催

◆第1回評議員選任・解任委員会 令和元年6月11日(火) 10:00~10:20
議案第1号 令和元年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会評議員の選任について

◆第2回評議員選任・解任委員会 令和元年10月8日(火) 10:00~10:20
議案第2号 令和元年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会評議員の補充選任について

◆第3回評議員選任・解任委員会 令和2年2月10日(月) 決議の省略が同意され書面決議
議案第3号 令和元年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会評議員の補充選任について

(5) 常任理事会の開催 (理事会において、決議・報告する事項の事前審議を中心に開催)

◆第1回常任理事会 令和元年5月24日(金) 13:30~15:30

◆第2回常任理事会 令和2年1月28日(金) 16:00~17:25

◆第3回常任理事会 令和2年3月3日(火) 10:00~12:00

(6) 第三者委員会の開催

令和元年7月29日、3名の第三者委員へ苦情案件(5件)の報告を行った。

(7) 賛助会費や寄付金等の自主財源の確保

学区社協を通じて、一般(戸別)及び特別(個人)会費にご協力をいただいた。また、継続的な財源を確保するためだけでなく、本会の活動を理解し、物心両面で支援をしていただく「賛助会員」の募集を行い、多くの方にご協力をいただいた。

種別	件数	金額(円)
組織構成会費	131	262,000
賛助会費	146	1,098,000
寄附金	101	5,139,517

(8) 第5次地域福祉活動計画の推進

第5次大津市社会福祉協議会地域福祉活動計画は、行政の地域福祉計画と一体的に策定したことで、大津市社会福祉審議会地域福祉専門分科会で大津市社協の活動について報告を行った。

回	日時	内容
1	平成31年4月26日(金)	・新たな地域自治組織の設立に向けて ・平成30年度大津市社会福祉協議会施設連絡会について
2	令和元年12月24日(火)	・第5次地域福祉活動計画、第3次地域福祉計画取り組み状況等報告 ・ひきこもり等に関するアンケート調査結果報告

第5次大津市社会福祉協議会地域福祉活動計画および第3次地域福祉計画の3年目の中間年として、各分野の推進プロジェクトチームと行政関係課・市社協のワーキンググループが合同で計画の評価を実施。

回	日時	内容
1	令和元年8月9日(金)	・基本目標1の評価
2	令和元年11月14日(木)	・基本目標2、基本目標3の評価

(9) 大津市社協職員プロジェクトの立ち上げ

1) 経費節減対策プロジェクト

グループを超えたチームにより、時間外勤務や事務経費などの項目を「ムリ、ムダ、ムラ」を省く多角的な視点により協議した。

2) 収益向上対策プロジェクト

新たな寄付者発掘のモデル実施や共同募金チャレンジ事業を通じた新たな参加者と共同募金の見える化を進めた。

また、一人暮らし高齢者を対象に最期まで安心して暮らせるしくみを目指した「おひとり様ずっと安心事業」をモデル的に実施した。

3) 組織・人事体制整備プロジェクト

人事制度改革を先進的に推進している滋賀県社協や甲賀市社協より取り組み経過をお聞きすると共に、令和2年度に向けた業者をプロポーザルにより選定した。

3. 活動の目標と具体的事業

本会は、第5次地域福祉活動計画において掲げた基本理念「一人ひとりを認めあい、支えあう、おおらかなまち“大津”」のもと、3つの目標に沿った活動を展開した。

目標1) 多様なネットワークの力で市民のニーズを広く受け止め解決する体制づくり

(1) 情報を必要な人に届ける取り組みの充実

① 本当に必要な人の手元まで福祉情報を届ける工夫をします		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
普段、福祉情報にふれることがない人でも、困った時や心配ごとが生じた際に、容易に目的の情報や相談窓口につながるよう、ホームページやSNS、広報紙等による情報提供を行います。	大津市社協のキャラクター「おおつ ひまりん」の積極的な活用と、地域や関係機関のイベントへの貸し出しを実施することで、まずは市社協を知ってもらうきっかけの場を増やした。ホームページを積極的に活用し最新情報の提供を行った。	必要な情報が必要な人に届くように、SNSとホームページをタイムリーに更新する。また、広報誌の掲載内容について、掲載時期や回数、内容を見直し充実を図る。

主な事業

・大津っ子まつり推進事業

令和元年5月19日に、子育て世代が多く集まる第36回大津っ子まつりに参加。子どもたちを対象にしたオリジナルペットボトルラベル作り体験を通して、本会や「おおつ ひまりん」の周知を行った。運営にはふわりサロンにもご協力いただき、子どもたちと接しながら運営をサポートしていただいた。また、民生委員児童委員やファミリーサポートセンターの啓発活動やボランティア団体による手作り品の販売も実施した。



300人の子どもたちがペットボトルづくりを体験



ふわりサロンの方に、子どもたち一人ひとりに丁寧に説明していただいた



ファミサポでは未就学児を中心に「おおつ ひまりん」のお面づくりでPR

・キャラクター活用事業

「おおつ ひまりん」の活用



・広報啓発事業(広報誌ひまわりの発行、ホームページの充実、社協ムービーの作成)

- 1) おおつ社協ニュースひまわり 157号(4/15)、158号(11/15)、159号(2/15) 回覧
- 2) ホームページの充実

本会のホームページを市民にとって分かりやすくし、タブレットやスマートフォンなどの多様な端末で閲覧できるホームページとした。

3) 社協PR動画の作成

社協活動を可視化できるように、福祉施設や大学に協力を得て動画を作成し、地域の研修会などで活用した。

・ SNS を利用した広報活動

Facebook、Twitter を活用した、広報活動を実施した。



・ 大津市社協本『見える社協から、魅せる地域福祉へ』の発刊

2017年度に「日本地域福祉学会優秀実践賞」を受賞したことを記念して、本会の著書『見える社協から魅せる地域福祉へ』を日本福祉大学の平野隆之教授の編集協力をいただき、令和元年8月31日に発刊した。

サブタイトルを「相談ごとがあったら社協に来たらええがな」とし、地域住民や関係団体と課題を共有し、連携して活動する記録や社協職員の声などを盛り込んだ。

(2) 市民が気軽に相談できる体制づくりとより積極的なニーズの把握

① 地域に出向き課題の掘り起こし（アウトリーチと地域アセスメント）に努めます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
コミュニティソーシャルワーカーや生活支援コーディネーター等が支援につながりにくいさまざまな生活課題を受け止めるとともに、アウトリーチによる地域のニーズ把握に努めます。	民協や福祉施設との協力により、かぎ預かり事業をスタートさせた。民協定例会で事業の趣旨を説明し理解を得たうえで、当事業を必要とする高齢者に声かけをしていただき、CSWが訪問し契約に向けアセスメントを行った。並行して、施設連絡会を通じて福祉施設にかぎを預かる同意を得た。民協—当事者—福祉施設をつなげることで、当事業を実現した。	グループ間連携を通じて、制度のはざまの新たな仕組みの創出や対象者の拡大を図る。

②相談機関、関係機関との連携の強化を図ります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
初期相談からスムーズに支援へつながるよう、担当職員同士の情報共有をきめ細かく行うとともに、相談機関や関係機関の連携強化を図ります。	相談機関連絡会では、多くの関係者が一堂に集まり、グループワークを通して顔の見える関係づくりが進んだ。生活困窮者自立支援事業に基づく庁内連携強化を図るために、庁内アセスメント会議の開催を市と協働で取り組み、相談者の実態把握と情報収集をワンストップで実施し、スムーズな支援につなげた。	関係機関の連携によって、ワンストップの相談支援体制を構築することが必要なので、引き続き連携を進める。

主な事業

・生活困窮者自立支援制度にかかる事業

1) 事業の目的

生活困窮者が困窮状態から早期に脱却することを支援するため、本人の状態に応じた包括的かつ継続的な相談支援等を実施するとともに、地域における自立・就労支援等の体制を構築することを目的としている。

2) 実施主体

大津市（大津市より受託）

3) 事業の概要

①自立相談支援事業【必須事業】

→ 生活困窮者の課題の把握、支援計画踏まえた包括的な支援、ひきこもり者の理解や支援の拡充を図ること目指し、地域のネットワークづくり等を実施した。

②子どもの学習支援事業【任意事業】

→ 夏休み等の子どもたちの学習機会の提供及び居場所づくり「寺子屋プロジェクト」を実施した。

夕方から夜の子どもたちの居場所づくり「トワイライトステイ」を実施した。

4) 事業実績

①自立相談支援事業（必須事業）

ア) 初期対応状況

(件)

新規相談 受付者数	内訳		
	継続支援し、 プラン策定	情報提供・ 相談のみ	他制度・他機関 等へのつなぎ
542	153	141	267

新規相談者受付数 542 件のうち、110 件は、新型コロナウイルス感染症に伴う特例貸付（緊急小口資金）の相談者である。

イ) 相談内容・困りごと ※複数選択あり

(件)

生活費の 収入 のこと	税金・公共料 金の 支払い	家賃・ローン の 支払い	仕事探し・ 就職 について	住まいの こと	債務 について	障害の こと	病気の 健康	食 べ る も の が な い	家族 との 関係	介護 の こと	ひきこ もり 不 登 校	仕事 の 不安 トラ ブル	子育て	D V 虐待	地域 との 関係	その他
301	164	98	98	84	67	64	34	29	13	13	11	10	5	3	117	

※その他は、主に貸付に関する相談

ウ) 新規相談受付のうちプラン作成による月別支援状況

(件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談受付件数		49	43	35	34	34	30	33	34	34	31	29	156	542
支援決定・確認件数 (再プラン含む)		8	14	14	14	10	11	15	7	14	18	12	16	153
うち	支援決定あり	1	0	1	0	0	1	0	0	0	3	0	1	7
就労支援対象者数 (プラン期間中の就労目標としている)		3	9	8	10	7	5	11	6	6	13	8	9	95
事業等 利用 法に 基づ く	住居確保給付金	0	0	1	2	1	0	0	1	0	0	1	1	7
	一時生活支援事業	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0	4
	家計改善支援事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	就労準備支援事業	1	0	1	0	0	1	0	0	0	3	0	1	7
	認定就労訓練事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	自立相談支援事業による就労支援	3	9	8	9	7	5	11	6	6	12	8	9	93
その他	生活福祉資金による貸付	0	1	2	2	1	3	0	1	3	2	1	1	17
	生活保護受給者等就労自立促進事業	3	9	7	6	5	4	11	6	5	11	7	8	82

※プラン内容は、プランの段階での利用予定であり、実際利用された件数とは異なる場合がある。

エ) 評価結果の状況

今年度、評価を実施した157人のうち変化が見られた人は、151人で、評価実施件数中、就労支援対象者プラン作成者は、101人で、うち62人が一般就労を開始した。支援により見られた変化では、税金や保険料、各種公共料金の滞納を返還、消費者金融等からの負債の清算による家計の改善が多く見られた。(件)

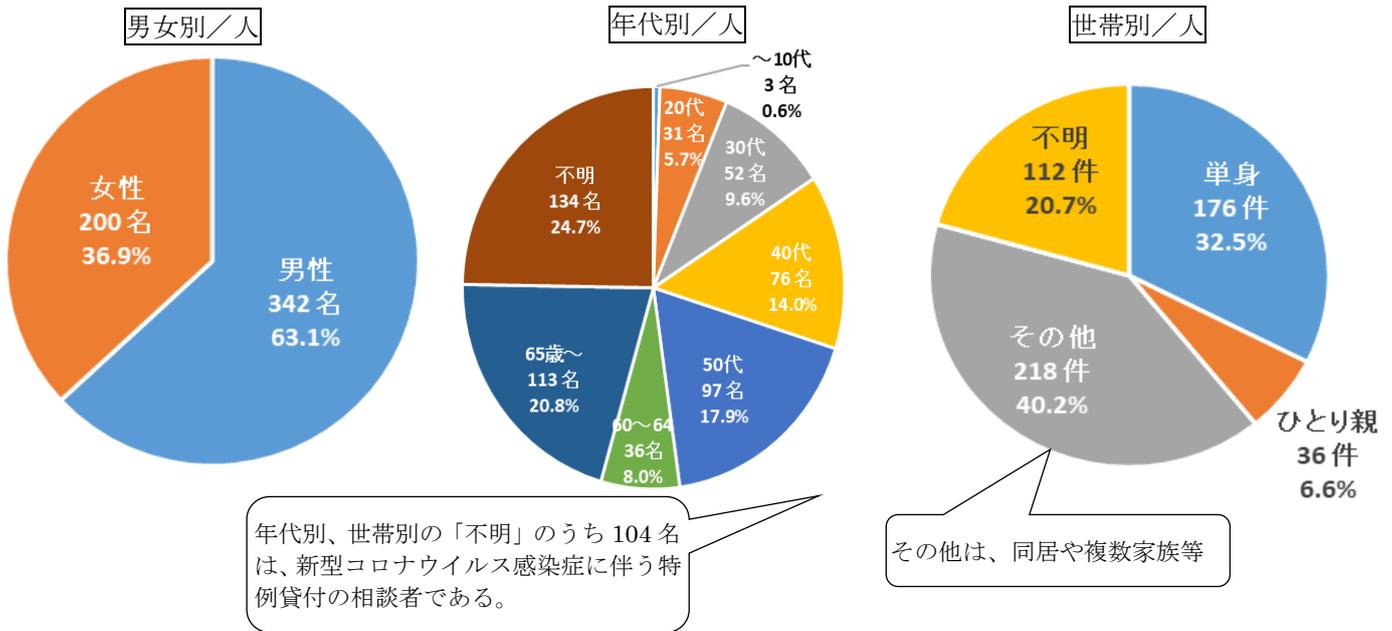
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
評価実施件数(再プラン含む)		17	7	8	10	9	5	13	9	16	18	14	31	157
評価結果	終結	13	5	5	5	4	1	10	9	10	12	10	20	104
	再プランして継続	4	2	2	5	5	4	2	0	6	6	4	11	51
	中断	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
変れ見 じたら	変化あり	16	6	7	10	9	4	13	9	16	18	12	31	151
	変化なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①評価実施件数中、就労支援対象者プラン作成者分		10	4	2	5	6	3	7	5	13	12	8	26	101
うち	一般就労開始	5	2	0	2	3	3	5	2	8	8	2	22	62
うち	就労収入が増加	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3
②評価実施件数中、就労支援非対象プラン作成者分		7	3	6	5	3	2	6	4	3	5	6	5	55
うち	一般就労開始	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0	2	7
うち	就労収入が増加	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
③プラン作成者以外														
うち	一般就労開始	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
うち	就労収入が増加	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

オ) 相談経路

(件)

看板・チラシ等を見て	ホームページ・	収納関係課	相談履歴あり	家族・知人・近所・職場	市社協ふれあい相談・権利擁護等	生活保護担当課	あんしん長寿相談所・すこやか相談所	学校	市役所 総合案内	病院・医療関係	ハローワーク・就ステ・サポステ	子ども家庭課・子家庭	民生委員児童委員・学区社協	県社協・他市社協	障害者支援事業所	一般企業・金融機関	議員(市議・県議)	保護観察所・刑務所	介護事業所・福祉施設	法テラス・弁護士・司法書士	不明	その他行政機関	その他	合計
157	109	56	43	28	19	17	9	7	7	7	6	5	4	3	5	3	3	2	2	16	17	17	542	

157件の内、新型コロナウイルス関連の相談が104件あった。



カ) 自立相談支援における就労支援状況

就労は生活の基盤であり、就労支援は、生活再建への有効な手立てのひとつである。ハローワーク、就労支援ステーション「ステップアップおおつ」と連携し、早期就職に向けた支援を実施した。

下記は、大津市社協が、独自に今年度の就労対象者（前年度からの継続者含む）と就労者・増収者を集計したものである。65歳を超えても就労を希望される方が増加している。また、今年度は、ひきこもり支援を拡充し、地域での居場所や施設連絡会の協力によりお仕事体験を積み重ねたことで、自信につながり、一般就労につながったケースもあった。

(件)

就労支援対象者	就労者数 (プランあり)	増収者数 (プランあり)	就労者数 (プランなし)	就職・増収者数累計	就労支援ステーション利用者数	就労・増収者率
159 (63)	55 (16)	2 (2)	2	59 (18)	64	48.4%

(自立相談支援における就労支援状況)

※就労支援対象者の()は、前年度からの継続者

※就職・増収者の()は、前年度に就職・増収し今年度もプラン継続中の者

今年度の就労支援対象者96人のうち就労支援ステーション「ステップアップおおつ」を利用された方は、64人(66.6%)であり、就労支援ナビゲーターと連携しながら、就労支援と生活支援を平行して実施していくことが就労率の向上につながった。

キ) ふわりサロンの開催

「日常生活自立」「社会生活自立」そして、「孤立からの脱却」を目指して、ゆるやかな居場所として当事者サロンを実施した。

- 定例会 11回 (毎月1回)
(3月の定例会は新型コロナウイルス感染拡大のため中止)
(うちステップアップ勉強会3回)
- ボランティア活動 3回
(参加人数延べ: 93名)

会議・イベント 実施日		内容		会場	時間	人数
4月10日	水	定例	・H31年度活動計画 ・レクリエーション 「コミュニケーション麻雀」	中会議室	10:00~12:00	5名
5月8日	水	定例	・クリーンウォーキング& おにぎり昼食会	中会議室	10:00~12:00	4名
6月12日	水	定例	第1回 ステップアップ勉強会 ・家計講座(社会保障制度について) 山崎講師	中会議室	10:00~12:00	6名
7月10日	水	定例	第2回 ステップアップ勉強会 ・社会人のマナー・接遇 長崎講師	視聴覚室	10:00~12:00	10名
8月14日	水	定例	・共同募金資材準備作業とそうめん昼食会	中会議室	10:00~12:00	9名
9月11日	水	定例	・外来魚駆除	大会議室	10:00~12:00	4名
10月9日	水	定例	・浜大津フリーマーケット準備	大会議室	10:00~12:00	10名
10月20日	日	イベント	・浜大津フリーマーケット販売	明日都浜大津	9:00~15:00	3名
10月30日	水	イベント	・地域連携会議ボランティア	ホール	10:00~16:00	8名
11月13日	水	定例	・企業見学ツアー	大会議室	10:00~12:00	8名
12月11日	水	定例	子どもの学習・生活支援とコラボ ・クリスマスカード作り	大会議室	10:00~12:00	8名
1月8日	水	定例	・初詣&ぜんざい昼食会	大会議室	10:00~12:00	7名
1月26日	日	イベント	・市民ヨシ刈り	琵琶湖岸 ヨシ群生地 (雄琴)	9:00~10:30	6名
2月12日	水	定例	第3回 ステップアップ勉強会 ・健康講座~メタボリックシンドロームについて~ 中すこ 奥野講師	小会議室	10:00~12:00	5名
3月11日	水	定例	第4回 ステップアップ勉強会 ・防災講座 高山講師	中会議室	※新型コロナウイルスの影響のため開催中止	



コミュニケーション麻雀の様子



ステップアップ勉強会
「家計講座」の様子



ステップアップ勉強会
「社会人の接遇マナー」で挨拶の練習



フリーマーケット値札付けの様子



フリーマーケット販売



クリスマスカードを園児にプレゼント

・総合ふれあい相談事業

令和元年度の相談状況は新規相談が困窮に関することや財産や借金といった問題や離婚問題等家族に関する相談は具体的な方法を求められるため、生活困窮者自立支援制度へのつながりや弁護士・司法書士相談へのつながりが主な対応となった。家族関係に関する相談では、子ども・若者総合総合相談へつなぐケースもあり、子ども・若者総合相談窓口からさらに社協外の支援機関へとつながりが広がるケースもあった。

市内7か所の総合ふれあい相談については、令和2年度から開催頻度を月2回から月1回ですすめることとなった。さらに旅費についても見直しを行い、ふれあい相談員を担う民生委員児童委員全員に一定額(500円)を支払い、公共交通機関を使って出務する方と自家用車またはバイクで往復10kmを超える方について別途実費分(自家用車については20円/km)を支払うこととした。

令和2年度のふれあい相談員を対象とした研修会を3月27日に予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため開催延期となり、令和2年度の市内7か所の総合ふれあい相談の開始が延期になる見込みである。

- 1) 相談体制 常設相談(市社協内) 相談員1名(相談員3名が交代で対応)
 市内7か所ふれあい相談所 相談員2名(相談員90名が交代で対応)

2) 相談状況 (件)

ふれあい相談		4月		5月		6月		7月		8月		9月			
相談件数		82		71		78		92		57		90			
		新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続		
		34	48	25	46	32	46	39	53	26	31	39	51		
相談内訳	電話	58		53		57		68		48		72			
	来所	13		16		9		14		7		14			
	訪問	6		1		4		3		1		0			
	その他	1		1		3		3		1		1			
	木戸	1		0		0		0		0		0			
	堅田	2		0		2		1		0		2			
	坂本	0		0		0		2		0		0			
	逢坂	0		0		0		0		0		0			
	晴嵐	1		0		1		0		0		0			
	南郷	0		0		0		0		0		0			
	瀬田	0		0		2		1		0		1			
合計		82		71		78		92		57		90			
ふれあい相談		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年度合計	
相談件数		84		78		56		57		64		78		688	
		新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続
		35	49	26	52	20	36	16	41	27	37	27	51	276	412
相談内訳	電話	63		58		46		44		43		55		523	
	来所	15		13		2		9		17		12		103	
	訪問	0		6		2		1		1		5		23	
	その他	2		0		3		1		1		3		15	
	木戸	0		0		0		2		0		0		1	
	堅田	1		1		0		0		0		1		9	
	坂本	1		0		1		0		0		1		4	
	逢坂	1		0		0		0		0		0		1	
	晴嵐	0		0		1		0		0		0		3	
	南郷	0		0		1		0		1		1		1	
	瀬田	1		0		0		0		1		0		5	
合計		84		78		56		57		64		78		688	

・相談機関連絡会の開催

近年、相談機能を有する各機関では社会経済情勢を反映して、相談内容が複雑・多様化しており、深刻な内容が多くなっている。

こうした状況に対応すべく、相談機関連絡会は平成5年から、精神保健福祉部会は平成7年から「機関相互の連絡と情報・意見の交換や共有」を目的に始まった。平成30年度から相談機関連絡会と精神保健福祉部会を統合し、2か月に1回の開催とした。参加機関は70機関にのぼり、担当者同士の積極的な連携の場として活用され、各関係機関の横のつながりをより深めることができた。令和元年度は5回開催した。自己紹介から始まり、毎回関係づくりに向けた工夫をしながら進めていたが、事務局負担と参加者の心理的負担を軽減するために年度後半は自己紹介と近況報告という当初から続いていたスタイルに戻した。新型コロナウイルスの拡大予防のため、3月の開催は中止となった。新年度を迎えると人事異動もあり、参加者も多くなるため、顔の見える関係づくりを目的として次年度以降も継続していきたい。

1) 相談機関連絡会 (70 機関) ※案内方法 ; メール、FAX

回	日 時	場 所	参加人数	内 容
1	5月10日(金)13:30~15:30	大会議室	42名	自己紹介・相談事例
2	7月26日(金)13:30~15:30	大会議室	27名	近況報告 グループディスカッション
3	9月27日(金)13:30~15:30	大会議室	19名	近況報告 グループディスカッション
4	11月20日(水)13:30~15:30	ホール	16名	近況報告 グループディスカッション
5	1月23日(木)13:30~15:30	ホール	16名	近況報告 グループディスカッション
6	新型コロナウイルスの影響により中止			
		合計	120名	

2) 効果

各相談員が日頃から顔の見える関係づくりを進め、専門職が困ったときにお互いに助け合えるネットワークづくりにつながる「助けて」と言える関係づくりが進んだ。

それぞれの機関はケースを通じて連携するしかお互いの存在や役割を知る機会がない中で相談機関連絡会があることで、相談員一人ひとりの引き出しが増え、相談力のアップにつながる機会をつくることができた。

例1) 障害年金の手続きで困っている相談機関⇒相談機関連絡会で社労士につながる⇒障害年金申請のサポートがスムーズに進んだ。

例2) 相談員が長年関わっているが、どうしたらいいかわからなくなっていた。相談機関連絡会で話をすると、他機関でも関わりがあることが判明。お互いに情報交換することで気持ちが楽になった。

相談機関連絡会の大きな役割は、①相談機関同士の顔の見える関係づくり(連携強化)②相談員を支える仕組み(相談員支援)の2点である。成果物は、各機関から情報収集し、一覧表にしたものと各機関からパンフレットなど情報提供されたものを参加者で共有したこと。

・市福祉政策課への職員派遣

大津市の福祉政策課へ社会福祉士を1名派遣した。
生活困窮者自立支援事業等を担当。

・法外援護及び扶助事業、福祉資金貸付事業、生活福祉資金貸付事業

本会に寄せられる生活困窮の相談は年々増加している。失業や病気などに伴う生活費の相談をはじめ、子どもの進学費用、家賃の滞納、ライフラインの停止、食べるものが無いといった相談が、日々寄せられた。こうした相談の解決方法として、生活福祉資金の貸付、法外援護及び扶助事業を実施しながら、関係機関と連携して相談業務を進めた。

また、新型コロナウイルス感染症における経済的影響が大きく、令和2年3月25日より、特例貸付が開始。本会においても、フリーランスを含める自営業や正社員から多数の相談が寄せられている。

1) 法外援護及び法外扶助事業（本会取り扱い分）

やむを得ない事情で生活困窮に陥った低所得世帯を、緊急的な一時支援として法外援護費を給付した。また、給付に伴い、生活再建にむけた自立支援を「生活困窮者自立支援事業」と一体的に行った。

所持金の紛失などにより援護を求めた方には、最低限度額の旅費等を法外扶助費として支給した。

法外援護費	10件	117,154円
法外扶助費	31件	7,780円（旅費等）

※上記のほか、学区社協では、独自に法外援護として貸付けを実施。

2) 市社協福祉資金

一時的な生活つなぎ資金として、福祉資金の貸付事業がある。平成21年度以降は、県社協の生活福祉資金の緊急小口資金の創設を機に、本資金の利用実績はない。

平成30年度からは要綱を変更し新たに、市営住宅入居当選者の方への、市税、社会保険料の滞納分貸付を開始したが、相談実績がなく、令和2年度から廃止。

3) 生活福祉資金の貸付

令和元年度の相談件数 (件)

新規相談	継続相談	合計
229	1,088	1,317

月平均約100件の相談を受けた。
なかでも、秋から春にかけては、進学・入学に際しての学費相談が多いのが特徴である。
新型コロナウイルス感染症による生活が苦しいといった相談が令和2年3月より多く寄せられている。

貸付決定件数

	貸付決定	貸付総額
福祉資金	13件	3,158,000円
教育支援資金	29件	41,313,883円
総合支援資金	0件	0円
緊急小口資金	15件	1,308,000円
不動産担保型生活資金	0件	0円

合計 57件

令和元年度は教育支援資金貸付の申し込みが多かった。特例貸付が始まったことで、緊急小口資金や総合支援資金は増加傾向の見込み

・顧問弁護士による相談事業

本会では、平成15年度より、顧問弁護士に、助言・指導をいただいている。令和元年度は月2回、計24回の弁護士相談を実施した。

顧問弁護士：土井法律事務所（土井裕明・黒田啓介・堀田直美弁護士）

相談件数は73件（平成30年度80件）となった。その内、定例の弁護士相談以外で電話や訪問対応を実施したのは6件であった。

また、相談件数は述べ95件（重複した相談を含む）となった。

令和元年度 顧問弁護士の相談件数

相談内容	件数	相談内容	件数	相談内容	件数
生計・多重債務	23件	事故	1件	医療	0件
財産・遺言	15件	権利擁護・後見	3件	問い合わせ	4件
結婚・離婚	8件	健康・保健・衛生	0件	母子父子福祉	0件
人権・法律	6件	障がい者福祉・虐待	0件	教育・青少年	0件
近隣トラブル	2件	職業・生業	2件	年金	2件
家族	10件	高齢者福祉・虐待	2件	児童福祉・虐待	0件
住宅	9件	悪徳業者・消費生活	4件	その他	4件

合計 95件

・顧問司法書士による相談事業

本会では、小額の借金や住宅の相談など、家計再建にかかる法律的な支援を必要とする相談が増加したことから、平成26年度より司法書士と顧問契約を締結し、きめ細かい相談事業を展開した。

顧問司法書士：ばてん司法書士事務所 馬殿貞爾司法書士

相談集計は、40件（平成30年度40件）となっており、市社協で実施している各相談事業の強い後ろ盾となった。

令和元年度 顧問司法書士の相談件数

相談事業名	相談内容	件数
生活困窮者自立支援事業	多重債務、借金・ローンの整理など	38件
地域福祉権利擁護事業	相続手続き、葬祭費還付について	2件
総合ふれあい相談事業		0件
その他		0件

合計 40件

・大津市子ども・若者総合相談窓口業務

令和元年度は、県内の民生委員児童委員の協力によりひきこもりアンケート調査が実施され、社会的にもひきこもり支援についてクローズアップされた1年であった。大津市で子ども・若者総合相談窓口がスタートしたことから、近隣市町にも子ども・若者支援を広げるための取り組みを実施した。一般市民や行政を巻き込んだひきこもり支援を考えるフォーラムを実施予定が、新型コロナウイルス感染症の影響により結果的に無観客フォーラムという形となったが、フォーラムの開催に向けて、野洲・栗東・守山・草津市社協、滋賀県社協とひきこもり支援について協議を重ねることができたことは大きな成果である。

個別の相談支援という面では、中学校や高校との連携が少しずつ広がった1年であった。子ども・若者総合相談窓口の存在が広がり、高校を卒業する（18歳が近づき一定の支援機関とのつながりが切れる）タイミングでの相談が増える傾向が見えた。この時期の相談は主に行政・支援機関からつながるケースが多いという傾向も出た。

子ども・若者支援地域協議会での一般も参加できる講演会の後は、個人の方からの相談があったため、一般参加向けの講演会は、相談機関につながる大きなきっかけとなった。

行政機関との連携と、インフォーマルな資源とのつながりを広げることが今後の相談支援

の充実には欠かせない。令和元年度は、親の会の立ち上げを目指す一般社団法人や、居場所づくりを進めている NPO 法人とのつながりも広げることで相談支援力を高めることができた。次年度も引き続き新たな支援者とのつながりづくりを進めたい。

1) 相談体制

常勤 1 名、嘱託 1 名、臨時 1 名 *2 名体制

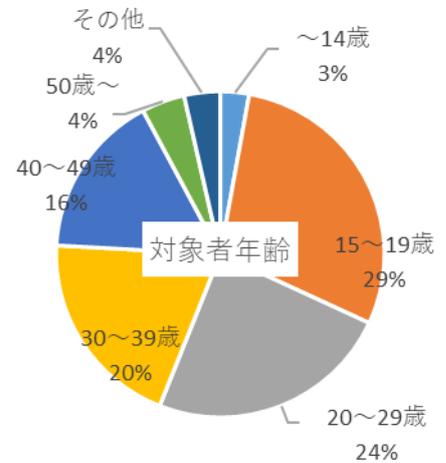
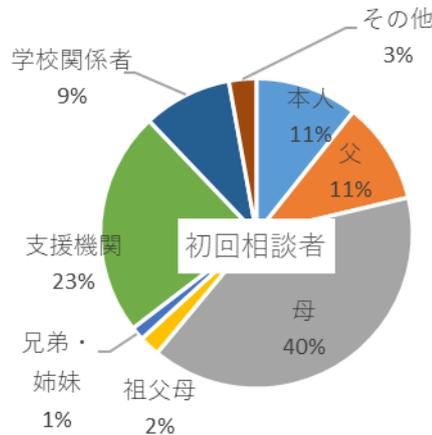
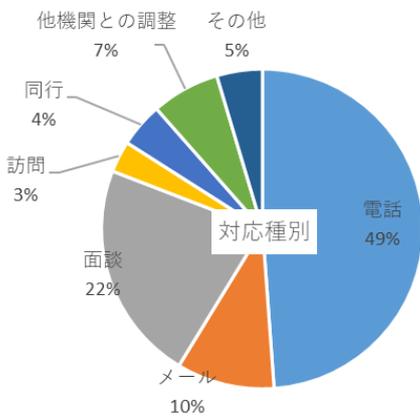
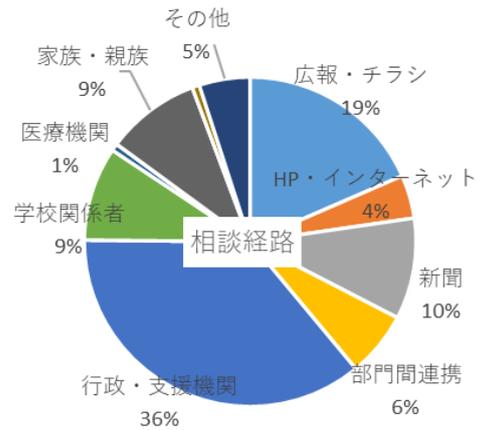
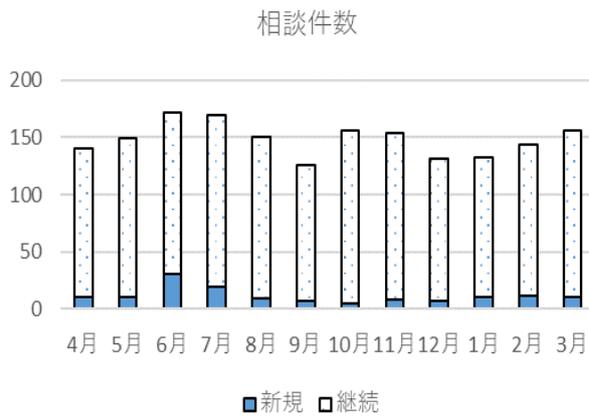
2) 相談状況

相談件数

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	11	11	31	19	9	7	5	8	7	10	12	11	141
継続	129	138	141	150	142	119	151	146	124	123	132	145	1640
合計	140	149	172	169	151	126	156	154	131	133	144	156	1781

相談件数



3) 研修

- 令和元年度子ども・若者総合相談センター機能高度化のための会合

日時：令和元年 12 月 9 日～11 日 場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
 全国から 77 機関 81 名が参加

全国的に NPO によるひきこもり支援が活発で、SNS 相談など先進的に取り組んでいる傾向があった。天津市社協において子若支援を進めるにあたり、今後ますます NPO 等の民間団体との連携が支援を広げるきっかけとなる。子ども・若者支援において、SNS 等の新しいコミュニケーションツールの進歩に向き合う必要性も感じる研修となった。

4) ひきこもり支援を広げるプロジェクト

滋賀県社会福祉協議会のひきこもり者・家族と共に歩む地域づくり事業助成金（500,000円）を活用し、近江南部（大津市、野洲市、守山市、栗東市、草津市）社協と彦根市社協、県社協の7つの社協でひきこもり支援ネットワーク会議を立ち上げた。全国ひきこもり支援フォーラム in そうじゃに参加し、滋賀県でもひきこもり支援を考えるフォーラムの開催を企画した。新型コロナウイルス拡大の影響により一般参加のフォーラムは中止となったが、無観客フォーラムという形で動画を撮影し、DVDを作成した。今回のプロジェクトを通して、近江南部にひきこもり支援を検討する社協のネットワークが出来た。

令和2年2月29日（土）10時 ひきこもりを考えるフォーラム 明日都浜大津4階

5) 成果

- ・インフォーマルな資源とのつながりづくり
- ・子ども・若者総合相談窓口の専用メールアドレスの活用
- ・大津市社協のネットワークによる就労体験の広がり
（大津市社協施設連絡会によるお仕事体験会、県社協の傍楽体験など）
- ・ひきこもり支援を考えるネットワークの構築

6) 課題

- ・相談員に対するアドバイザー設置（医療、心理面における相談力の向上）
- ・アセスメント力の向上（他機関連携がスムーズにできるアセスメントシートの作成と活用）
- ・ひきこもり支援の地域ネットワークの充実
（子ども・若者支援地域協議会への参画、教育分野との連携強化）
- ・若者が相談しやすい相談ツールの開発

・寝具丸洗いサービス事業

大津市内に在住し、日常生活を営む上で支障のある（とりわけ布団の清掃維持の困難な）65歳以上のねたきり・認知症の高齢者に対して日常生活の援助及び、環境の改善を目的として、平成13年度より、大津市からの受託事業として実施している。

民生委員児童委員からは、「布団がふっくらして嬉しい」「安心して利用できて助かる」などの利用者の声を届けていただいた。

※利用料 1枚につき400円（羽毛布団は1枚につき600円1人2枚まで実施）

1) 寝具丸洗いサービス事業実施状況表

(件)

	実施件数 (人)	実施枚数 (枚)				計	代替布団 (枚)	
		敷布団		掛布団			敷布団	掛布団
		羽毛	羽毛以外	羽毛	羽毛以外			
平成29年度	227	7	157	142	111	417	38	19
平成30年度	252	10	158	163	129	460	37	24
令和元年度	235	10	166	154	87	417	41	26

・大津市高齢者等地域見守りネットワーク事業

1) 目的

地域をフィールドに活動する企業・団体と見守りネットワークを構築し、異変等を発見した際に迅速に対応できる体制を確保することにより、高齢者等が住み慣れた地域で安心した生活を送れるよう支援する。

2) 内 容

協定締結事業所が日常業務、営業活動の中で「普段と様子が違う」「おかしい」「ちょっと心配」などの異変を感じた場合、代表窓口となる本会に連絡いただくと、市民生委員児童委員協議会連合会など関係機関と連携し、支援を行う。ただし、受付時間は平日午前9時から午後5時までとし、休日や緊急を要する場合は事業者より警察、消防等へ通報した後、本会へ連絡をいただいている。

3) 事業主体

社会福祉法人大津市社会福祉協議会
大津市民生委員児童委員協議会連合会
大津市
市内事業所

協定事業所からは、「ネットワークによりSOSの連絡先が明確になり、安心です」との声をいただいている。

4) 見守りネットワーク協定締結事業所

	事業所	締結日
1	読売販売店大津地区販売店 17 店舗	平成 26 年 5 月 23 日
2	明治安田生命保険相互会社 滋賀支店	平成 27 年 2 月 1 日
3	ヤマト運輸株式会社 滋賀主管支店	平成 27 年 3 月 27 日
4	大津市企業局	平成 27 年 4 月 1 日
5	布亀株式会社	平成 27 年 6 月 22 日
6	株式会社プロテクト (サンライズ坂本・移動スーパーとくし丸)	平成 27 年 12 月 22 日
7	京滋ヤクルト販売株式会社	平成 28 年 8 月 1 日
8	京都新聞滋賀県専売会大津ブロック	平成 29 年 2 月 1 日
9	レーク大津農業協同組合	平成 29 年 3 月 28 日
10	生活協同組合コープしが	平成 29 年 11 月 16 日
11	ワタミ株式会社	平成 30 年 10 月 1 日
12	大津市コンビニエンスストア協会	平成 30 年 11 月 15 日
13	公益社団法人 大津市シルバー人材センター	平成 30 年 12 月 21 日
14	株式会社 大津衛生社	平成 31 年 3 月 5 日
15	株式会社セブン-イレブン・ジャパン	令和元年 10 月 1 日
16	株式会社 平和堂	令和元年 10 月 1 日

5) 活動状況

①連絡件数：10 件（前年度 8 件）

②活動内容（抜粋）

日 時：令和元年 5 月 21 日

事業所：ワタミの宅食

内 容：「いつも手渡しをしている方が不在でお弁当が二日分たまっている」

⇒ネットワーク台帳から緊急連絡先の親族の方に連絡がつながる。入院中であったことが判明。

日 時：令和 2 年 1 月 9 日

事業所：読売新聞

内 容：「新聞が溜まっており心配なお宅がある」

⇒あんしん長寿相談所が関わっておられる方で、本人の安否を確認。親族宅にいらっしゃることが分かった。

・いのちのバトン推進事業

1) 事業目的

本事業は、救急医療情報キット「いのちのバトン」の配布を通して、救急時に役立てるとともに、健康面やひとりであることに不安を抱えながら在宅生活を送る方の安心感の確保や、学区社協を中心に小地域において声掛け、訪問活動の促進及び地域のつながりづくりによる地域福祉の充実を図ることを目的としている。

2) 事業実施主体

学区社協が主体となって学区内の実情に応じて、地区民児協・学区自治連合会等の関係機関・団体と協働して取り組んでいる。

3) バトンの配布先

75歳以上の独居高齢者世帯を基準に、学区の実情に応じて、年齢等の条件設定をしていただき配布した。

4) 配布本数

1023本（令和元年度）

57,035本（累計）

5) 救急隊の活用件数

1件（平成31年度）

64件（累計）

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
12件	12件	6件	3件	4件	1件

6) 救急隊の活用事例

傷病者から夜中に救急要請があり、救急隊が自宅にかけつけたところ本人は動くことが出来ない様子であった。下駄箱の上にあった『いのちのバトン』で、状況を聴取した。

(3) 相談を受け止め、対応する力の向上

① 地域の中での相談力の向上を図ります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
困りごとを抱えた方の「SOS」を身近な地域でいち早くキャッチすることができるよう、民生委員児童委員を対象にした相談活動セミナーのほか、傾聴ボランティア講座、福祉委員の研修等を通じて、地域の中での相談力の向上を図ります。	1) 相談活動セミナー 初級セミナー6回開催し20名修了→中級へ。中級セミナー4回開催し67名修了→ふれあい相談員へ推薦。 2) 傾聴ボランティア講座では、26名が修了。 3) 各学区で福祉委員の研修会を実施し、地域福祉の担い手、見守りの担い手として養成。	1) 相談活動セミナーを引き続き開催する。 2) 傾聴ボランティア講座を引き続き開催する。 3) 学区別に開催する研修会を支援する。

主な事業

・傾聴ボランティア講座の開催

高齢者に寄り添ってお話を聴く「傾聴ボランティア」を養成するとともに、ボランティア活動に必要な「コミュニケーション力＝聴くこと」の大切さや、「聴き方」の基本を研修や実践をとおして学んでいただいた。

受講者：25名（修了者）うち9名が傾聴ボランティアダンボの会に入会

	日時及び会場	内 容	講 師
講義 ①	令和元年8月29日(木) 13:30-16:00 明日都浜大津5階中会議室	話し方・笑顔の作り方 ～第一印象の大切さや 話し方の基本～	講師：話し方・マナーアドバイザー 安部田 幸子 氏
講義 ②	令和元年9月11日(水) 13:30-16:00 明日都浜大津5階大会議室	傾聴とは ～実践に役立つ演習～	講師：龍谷大学非常勤講師 扇田 宗親 氏
講義 ③	令和元年9月26日(木)～ 10月7日(月)内の10日間	福祉施設での実践研修	市内高齢者福祉施設及び デイサービスセンターなど14施設
講義 ④	令和元年10月9日(水) 13:30-16:00 明日都浜大津5階大会議室	寄り添うとは ～自分も相手も 大切にす～	講師：龍谷大学非常勤講師 扇田 宗親 氏



安部田氏講演の様子



扇田氏講演の様子

・ 民生委員児童委員の相談セミナーの開催支援

大津市民生委員児童委員協議会連合会が主催する相談活動セミナー（初級・中級）の開催を支援した。初級は相談活動の基本を学ぶこととし、中級は、初級を修了した民生委員児童委員を対象に、総合ふれあい相談所の相談員の養成も兼ねて、具体的な事例を検討する内容で開催した。

初級	日 時	内 容	講 師	参加者
1	5月22日	「ひとりで抱え込まないために」	市民児協連 参与 一色 誠三 氏	13名
2	6月28日	「法律相談との連携」	土井法律事務所 弁護士 土井 裕明 氏	19名
3	7月23日	「子育て支援について」	大津市子ども家庭相談室 相談員 中島 円実 氏	12名
4	8月19日	「あんしん長寿相談所との連携」	あんしん長寿相談所 社会福祉士	14名
5	9月20日	「話を聴くということ」	介護支援専門員 扇田 宗親 氏	16名
6	10月23日	「相談・面接の進め方」	大津市社会福祉協議会 事務局次長 山口 浩次	15名
中級	日 時	内 容	講 師	参加者
1	5月22日	「相談面接の技術」	NPO法人あさがお 理事 尾崎 史 氏	66名
2	6月28日	出張アディクションフォーラム	アディクションフォーラム実行委員会	54名
3	7月23日	「心のトラブル・心の健康」	精神保健福祉士 奥田 由子 氏	62名
4	8月19日	「総合ふれあい相談」の活動について	大津市社会福祉協議会 事務局次長 山口 浩次	53名

・ 総合ふれあい相談所相談員研修の開催

※令和元年度の総合ふれあい相談員研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催延期となった。

(4) コーディネーション力の高い専門職の充実

① コミュニティソーシャルワーカー、ボランティアコーディネーター、生活支援コーディネーター等の充実と質の向上を図ります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
コミュニティソーシャルワーカーやボランティアコーディネーター、生活支援コーディネーター等のコーディネート力が向上するよう、研修等を充実します。	年6回の地域支援勉強会を通して、事業の目的・手段・目指す姿を確認し、戦略を立てて事業を進めた。コーチングの技術を学び実践した。	引き続き地域支援勉強会を継続開催し、コーチングの技術を通し互いのコーディネート力を高め合う。

主な事業

・CSW7名の配置。個別支援と地域支援活動を担当

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）は、地域において、支援を必要とする人々の生活圏や人間関係等の環境面を重視した援助を行うとともに、地域を基盤とする支援活動を発見・開発して支援を必要とする人につなぎ、家族や地域住民、公的制度との関係を調整する地域福祉の専門職員である。

1) コミュニティソーシャルワーカー相談件数 (延べ：件)

相談内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
市社会福祉協議会関連	453	446	604	680
学区社会福祉協議会関連	808	1174	955	1,519
民児協関連	1935	1532	56	236
心配ごと相談 (高齢・障害・病氣・孤立・地域)	1461	2718	3784	4,659
生活困窮・学習支援 (子ども・ひとり親・困窮)	867	1090	860	983
その他	201	412	248	213
合計	5,725	7,524	8,243	8,290

コミュニティソーシャルワーカー配置人数 (人)

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
配置人数(累計)	5	6	7	7

2) 活動状況

①個別支援と地域支援

1 人の困りごとは地域の困りごととらえ、その人が地域で居場所を見つけて、その人らしく過ごせることを目指して相談支援を実施した。また、個別の課題を地域の普遍的な課題と捉え、その課題について地域で支援する仕組みづくりを意識して活動を行った。

②関係機関との連絡調整

複合的な問題が絡み合う課題に対しては、様々な支援者が関わりながら対応することが必要である。個々の問題それぞれの対応に適した機関につなぐこと、その機関同士がつながるよう連絡調整を図る役割を担った。

③ブロック担当者連絡会議の開催

CSWは、市内7ブロックにそれぞれ分かれて配置されていることから、月に1度、各担当の活動や課題を共有し、協議する場を設けた（ブロック担当者会議）。

他のブロックの取り組みを知り、参考にすることが、各担当ブロックの活動の充実化につながった。

また、CSW全員で課題を共有し多角的に検討することが、より良い支援や、各CSWのコーディネーション力の向上につながった。

④地域支援勉強会の開催

CSWの技術及び質の向上、さらには地域福祉の推進を目的として、大学の研究者の協力を得て、年間6回、「地域支援勉強会」を開催し、以下の成果を得た。

- ・CSWがそれぞれの担当ブロックで事務局を務める3つの事業（ブロック社協連絡会・大津市社協施設連絡会・生活支援体制整備）をより効果的に行い、まちづくりを一步前に進めることを目的に、事業の目的や目指す姿、それらの達成のための手段を改めてチームで見直した。
- ・CSWとして目指すまちづくりについてビジョンを持ち、その実現に向けた今年度のゴール設定と事業展開を、前記3つの事業と連動させながら、CSWそれぞれがタイムラインを用いて検討した。各事業で行うイベントや会議は、ゴールを見据えた意図的なものとして実施した。
- ・各事業の振り返りを効果的に行い、さらに事業を前に進めることを目的に、コーチングというコミュニケーション技術を学び実践した。コミュニケーション技術の学びと実践がCSWの質の向上につながった。
- ・CSWの役割を外部へ発信すること、市社協における部門間連携の向上を図ることを目的に、平成30年度に続きCSWの実践を取りまとめたリーフレットを作成した。

・業務検討会等職員研修会の実施

専任講師や外部講師による、職員を対象にした体系的な研修会を実施した。

	研修会内容	対象者
1	新任者研修	新任職員
2	入社導入・6か月フォロー研修	新任職員（社会人1年目）
3	マネジメント研修会	グループリーダー
4	新任リーダー研修	新グループリーダー
5	キャリア面談	嘱託・臨時職員
6	キャリア開発セミナー	嘱託・臨時職員
7	業務検討会	正規職員全員
8	身近な法律研修	全職員
9	会計研修	幹部職員

1) 新任者研修

日 程	講 師	内 容
令和元年4月	大津市社会福祉協議会 事務局職員	社協の新基本要項 大津市社協のあゆみ・特徴

2) 入社導入・6か月フォロー研修

日 程	講 師	内 容
2平成31年4月16日、 5月29日、6月25日	元（株）花王 研修担当 長崎俊昭氏	社会人のマナー研修、 ビジネスマナー研修
令和元年10月8日	元（株）花王 研修担当 長崎俊昭氏	半年間の学びとプレゼン実践

3) マネジメント研修

日 程	講 師	内 容
令和元年7月2日	元（株）花王 研修担当 長崎俊昭氏	マネジメントの基礎を学ぶ

令和元年8月26日、 9月3日	カーニバルライフ代表 山下比佐暢氏	コーチング研修「部下の力を引き出す支援方法」
令和2年3月13日	大津市社会福祉協議会 事務局職員	リーダー職員のためのマネジメント研修（キャリアパス）

4) 新任リーダー研修

日程	講師	内容
平成31年4月16日	元（株）花王 研修担当 長崎俊昭氏	新任リーダーのため基礎研修

5) キャリア面談

日程	講師	内容
令和元年6月4日、 6日、11日、13日	元（株）花王 研修担当 長崎俊昭氏	一人60分業務の振り返りと課題提案

6) キャリア開発セミナー

日程	講師	内容
令和元年8月27日、 29日	元（株）花王 研修担当 長崎俊昭氏	仕事の進め方、キャリアアップの方法、グループワーク等

7) 業務検討会

日程	講師	内容
令和元年12月3日、 11日	元（株）花王 研修担当 長崎俊昭氏	ワンチームを目指すために（グループワーク形式）

8) 身近な法律研修

日程	講師	内容
令和元年7月30日、 10月21日、 令和2年3月23日	土井法律事務所 土井裕明氏	パワーハラスメントについて コンプライアンス全般 改正民法研修

9) 社協の会計研修

日程	講師	内容
令和元年10月21日、 11月26日、 令和2年1月20日	税理士 上西祥之氏	社会福祉法人の会計について 中核市の経営実態分析 分析と予算編成のヒント

（5） 権利擁護支援の充実

① その人らしく地域で生活するための権利擁護のしくみづくりに努めます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
地域福祉権利擁護事業や成年後見制度等の利用支援を進めるとともに、親族後見人、専門職後見人以外の受け皿を確保するため、法人後見事業を推進し、その人らしく地域で生活するためのしくみが安心して利用できるよう取り組みます。	地域福祉権利擁護事業と法人後見事業の一体的支援の充実を図るため、2チーム制の導入や生活支援員の増員を行った。 また、判断能力はあるものの身近に頼れる親族がいない一人暮らし高齢者を対象に、入退院時のサポートや預託金サービスなど、仕組みづくりに向けた「おひとり様ずっと安心モデル事業」を実施した。	既存の制度や福祉サービスでは解決できない、ひとり暮らし高齢者の困りごとにも焦点を当てた、新たな事業の開拓を目指す。

② 権利擁護関係機関などとの連携強化を図ります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
地域の関係団体や事業者同士、市の関係機関、社会福祉協議会等、地域福祉に関わる関係組織が連携し、介護保険や障害福祉事業等の制度間の連携を図り、総合的に地域福祉を推進していきます。	多様な権利擁護支援機関とのネットワークを基に、「なんでも相談会」「模擬受任調整会議」「事例検討会」を協働で企画・実施した。また、大津市権利擁護サポートセンターや虐待防止センターと連携し、権利擁護相談に積極的に対応した。	家計相談、滞納整理、分納交渉など、相談者が抱える金銭問題から生活課題、法的支援などに、幅広く対応できるよう、柔軟な連携と専門性の向上を目指す。

主な事業

・法人後見事業の実施

平成 28 年度から公益的な取り組みとして法人後見事業を実施しているなか、令和元年度は、新たに 1 件の成年後見を受任した。

また、権利擁護支援センターを事務局とした、事例検討会や受任調整会議、なんでも相談会等に参画し、市内の弁護士・司法書士・社会福祉士同士の連携強化を図った。

1) 類型別受任及び終了状況 (人)

	後見		保佐		補助		合計	
	受任	終了	受任	終了	受任	終了	受任	終了
平成 28 年度	0	0	1	0	0	0	1	0
平成 29 年度	8	1	6	0	2	0	16	1
平成 30 年度	1	0	2	0	0	0	3	0
令和元年度	1	1	0	0	0	0	1	1
合計	10	2	9	0	2	0	21	2

2) 障害類型及び居所別受任状況 令和 2 年 3 月末現在 (人)

	認知症高齢者	知的障害者等	精神障害者等	合計
在宅	1	4	2	7
福祉施設	11	0	0	11
病院	0	0	1	1
合計	12	4	3	19

3) 類型別支援実績及び支援内容 (件)

類型内訳		支援方法					合計
		電話	来所	訪問	その他		
後見	9	117	149	130	250	646	
保佐	9	179	3	155	428	765	
補助	2	53	44	42	52	191	
合計	20	349	196	327	730	1,602	

(件)

類型内訳		支援内容							合計
		契約行為	代理行為	同意行為	ケース会議	連絡調整	訪問	支払手続き	
後見	9	1	76	6	8	137	74	377	679
保佐	9	4	86	1	7	196	101	424	819
補助	2	0	12	0	3	58	35	88	196
合計	20	5	174	7	18	391	210	889	1,694

4) 障害類型別支援実績及び支援内容 (件)

障害類型内訳		支援方法				
		電話	来所	訪問	その他	合計
高齢	13	212	25	185	304	726
知的	4	94	52	123	109	378
精神	3	43	119	19	317	498
合計	20	349	196	327	730	1,602

(件)

障害類型内訳		支援内容							
		契約 行為	代理 行為	同意 行為	ケース 会議	連絡 調整	訪問	支払 手続き	合計
高齢	13	3	103	7	14	241	113	305	786
知的	4	0	43	0	3	105	81	173	405
精神	3	2	28	0	1	45	16	411	503
合計	20	5	174	7	18	391	210	889	1,694

緊急時の安否確認や受診同行、遺言書の作成など関係機関と連携しながら、援助を行った。
被後見人1名が亡くなられたため、死後事務及び保管財産の引渡し等を行った。

・地域福祉権利擁護事業の実施

判断能力に困難性のある方や財産管理に不安をもっておられる方と契約を交わし、①福祉サービスの利用援助 ②日常の金銭管理サービス ③書類預かりサービスを中心に、日常生活における代理、代行、同行等の様々な支援を行った。こうした日常的なかかわりの中で、生活状況の変化を察知し、医療・福祉・行政などさまざまな関係機関と連携を図っている。

また認知症の進行をはじめ判断能力の低下が進み、法律行為に不安のある利用者は大津市権利擁護サポートセンター・弁護士・司法書士等関係機関と連携し、成年後見制度への移行に向けて支援した。

1) 相談援助件数 (延べ件数) (件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合計
平成26年度	4,701	3,894	3,389	190	12,174
平成27年度	5,948	4,449	3,013	216	13,626
平成28年度	5,331	5,121	2,837	281	13,570
平成29年度	3,965	4,523	2,815	304	11,607
平成30年度	5,481	5,006	3,529	575	14,591
令和元年度	4,595	5,614	3,637	460	14,307

2) 契約締結件数 (件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合計
平成26年度	19	6	10	3	38
平成27年度	33	11	10	1	55
平成28年度	13	11	11	1	36
平成29年度	21	14	6	8	49
平成30年度	8	8	7	4	27
令和元年度	15	7	4	0	26
累計	349	121	99	42	611

3) 契約終了件数 (件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合計
平成26年度	25	2	7	4	38
平成27年度	22	6	9	0	37
平成28年度	39	6	6	3	54
平成29年度	25	7	5	1	38
平成30年度	19	4	5	3	31
令和元年度	16	6	4	0	26
累計	299	52	59	37	447

※令和元年度終了件数内訳 (件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合計
本人の希望	2	4	1	0	7
死亡	5	0	1	0	6
成年後見制度移行	8	1	2	0	11
市外へ転出	1	1	0	0	2

4) 現在の実利用人数 (件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合計	生活保護
平成26年度	65	46	31	3	145	
平成27年度	77	51	33	4	165	50
平成28年度	51	56	38	2	147	47
平成29年度	45	66	36	11	158	45
平成30年度	35	70	36	12	153	48
令和元年度	34	71	36	12	153	48

5) 年代別契約状況 (件)

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100歳以上	合計
平成30年度	5	28	14	24	13	19	27	18	4	1	153
令和元年度	1	25	17	22	18	17	28	19	6	0	153

6) 新規相談件数及び相談経路 (件)

相談経路	相談件数	契約件数
生活福祉課	13	2
障害福祉課	1	
長寿政策課	1	
子ども家庭相談室	1	1
あんしん長寿相談所	24	6
児童福祉施設	5	1
児童相談所	1	1
大津市権利擁護サポートセンター	4	1
グループホーム(知的)	1	
滋賀保護院	1	1
福祉作業所	2	
病院(医師)	5	1
居宅介護支援事業所	11	3
知的障害者支援機関	4	1
精神障害者支援機関	4	1
おおつはたらき暮らし応援センター	1	
民生委員児童委員	1	1
弁護士・司法書士	2	1
本人・親族・知人	5	
他市町社協	1	

社協内（自立支援グループ）	10	5
合 計	98	26

・ 権利擁護支援における個別援助実績

法人後見事業・地域福祉権利養護事業においては、介護事業所や相談機関等、ご本人を取り巻く様々な支援者との情報共有や支援調整が要となることから、ケース会議に積極的に参加している。また、制度では補えなえない緊急一時的な支援や、必要に応じて同行や同席などの寄り添い支援も実施している。

1) ケース会議出席件数 (件)

類 型				合 計	分 類			合 計
高齢	知的	精神	その他		未契約	地権	後見	
45	51	23	2	121	16	88	17	121

2) 個別援助件数 (件)

分 類				事 業 名				援 助 内 容											
高齢	知的	精神	その他	合計	権利擁護	法人後見	未契約	合計	伴走支援	代行支援	業者等の立合い	物資支援	食料支援	安否確認	緊急支援	買物支援	おそうじP	その他	合計
119	106	84	5	314	99	179	36	314	140	33	60	14	3	27	20	3	14	314	

・ 権利擁護への課題に対する取り組み

相談支援における知的障害や関連施策等の理解を進めるために、彩社会福祉士事務所代表の坂本彩氏とアドバイザー契約を行い、グループ研修の企画・実施、個別事例検討や支援困難ケース等の相談を通じて、利用者対応の質の向上を図った。

1) グループ内及び関係機関合同研修

日 程	講 師	内 容
令和元年7月31日(水)	彩社会福祉士事務所 代表 坂本 彩氏	ロールプレイングで 当事者体験をしよう
令和元年8月21日(水)	大津市消費生活センター 小田柿相談員	キャッシュレス決済勉強会
令和2年3月4日(水)	大津市社会福祉協議会 事務局次長 山口浩次氏	熊さんから学んだこと

2) 専門員実践力強化研修会Ⅱ

日 程	場 所	内 容
令和2年1月29日 (水)～31日(金)	全社協中央福祉学院ロフ ォス湘南	・日常生活自立支援事業を取り 巻く状況 ・事例検討他

3) 滋賀県社会福祉士会基礎研修Ⅰ

日 程	場 所	参加人数
令和元年10月5日(土)	滋賀県立男女共同参画セ ンターG-NET しが	5名
令和2年1月18日(土)		

・権利擁護研究会の開催

障がい者の地域生活の現状と課題の共有、犯罪被害をテーマにした権利擁護ハンドブック発行の検討を行った。

開催日		
6月3日(月)	9月9日(月)	12月9日(月)

メンバー：当事者（家族）、相談支援事業所、就労支援事業所、弁護士、
犯罪被害者支援事業所、研究者、市社協

(6) 大津市における地域包括ケア体制の構築

① 誰もが参加できる地域包括ケアに向けた地域力の向上を目指します		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
市民や行政、専門職が協力して地域包括ケアに取り組んでいくため、日頃からのつながりを構築し、課題解決へのサポートが得られるよう、地域力の向上を目指します。	第2層生活支援コーディネーターが、あんしん長寿相談所と協働しながら協議体を運営し地域課題に対応した取り組みや事業を実施した。	各ブロックで高齢者の担い手養成、活動の創出、高齢者の活躍できる場の確保を目指し、地域のつながりづくりの構築に努める。

② 地域での助けあい、支えあい活動の把握と連携の充実に努めます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
市民と専門職同士、また、市民と専門職等のネットワークを強化し、困難を抱えている人に必要な支援を提供できるよう、地域での助けあい、支えあい活動を把握するとともに、生活支援におけるコーディネート機能を充実します。	生活支援等に係る社会資源を情報収集し、厚生労働省の「介護サービス情報システム」を活用し情報を発信した。また、この情報を専門職向けにブロックごとに冊子を作成した。	冊子を専門職に配布し、地域の社会資源を実際に活用してもらえるようにする。

主な事業

・生活支援体制整備業務

1) 事業の目的

本事業は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう「生活支援コーディネーター」の配置と「協議体」の設置により、地域での助け合いやささえ合い活動を育み、地域力の向上を目指すことを目的としている。

2) 実施主体

大津市（大津市より受託）

3) 事業の内容

生活支援コーディネーターの活動と、協議体などによるつながりづくりから、地域に高齢者の生活を支える仕組みづくりを推進する。

*「生活支援コーディネーター」は、高齢者の日常生活における困りごとを把握・共有しながら、地域の実情に合わせた仕組みづくりを行っている。そのために、地域の社会資源である人と人、人と活動、活動と活動を「発掘・つなぎ・発信」し、助け合いや支え合いを推進している。

*「協議体」は、地域のみなさんと高齢者の生活支援に携わる介護事業所、福祉施設、法人、企業、ボランティア団体など多様な主体が、それぞれの知恵や工夫を活かして暮らしやすい地域づくりを進める話し合いの場である。

令和元年度	生活支援コーディネーター	協議体
大津市全域(第1層)	11名(第2層兼務)	1ヶ所
7保健福祉ブロック(第2層)	7名	7ヶ所

① 協議体の運営

大津市が開催する第1層(大津市域)協議体、あんしん長寿相談所が開催する第2層(7保健福祉圏域)協議体に企画段階から参画し協議体の運営に協力した。

ア) 第1層(大津市域)

令和元年度第1回協議体連携会議																			
開催日	令和元年10月7日																		
開催場所	明日都浜大津ふれあいプラザ4階(大会議室)																		
【内容】																			
1. 自己紹介	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">第1層協議体メンバー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>大津市老人クラブ連合会</td></tr> <tr><td>2</td><td>公益社団法人 大津市シルバー人材センター</td></tr> <tr><td>3</td><td>社会福祉法人 大津市社会福祉協議会</td></tr> <tr><td>4</td><td>生活協同組合コープしが</td></tr> <tr><td>5</td><td>レーク大津農業協同組合</td></tr> <tr><td>6</td><td>大津市コンビニエンスストア協会</td></tr> <tr><td>7</td><td>株式会社 平和堂(新)</td></tr> <tr><td>8</td><td>京都信用金庫(新)</td></tr> </tbody> </table>	第1層協議体メンバー		1	大津市老人クラブ連合会	2	公益社団法人 大津市シルバー人材センター	3	社会福祉法人 大津市社会福祉協議会	4	生活協同組合コープしが	5	レーク大津農業協同組合	6	大津市コンビニエンスストア協会	7	株式会社 平和堂(新)	8	京都信用金庫(新)
第1層協議体メンバー																			
1		大津市老人クラブ連合会																	
2		公益社団法人 大津市シルバー人材センター																	
3		社会福祉法人 大津市社会福祉協議会																	
4		生活協同組合コープしが																	
5		レーク大津農業協同組合																	
6		大津市コンビニエンスストア協会																	
7	株式会社 平和堂(新)																		
8	京都信用金庫(新)																		
2. 情報提供																			
3. 助け合い体験ゲーム																			
5. まとめ																			
事務局																			
大津市役所健康保険部長寿政策課 地域包括ケア推進室																			
各あんしん長寿相談所																			
本会(第1層・第2層生活支援コーディネーター)																			
本会の参加者	7名																		
 																			

イ) 第2層 (7保健福祉圏域)

＜志賀ブロック＞		
第1回	令和元年6月4日(火)	志賀健康いきいき祭について 地域ニーズについて
第2回	令和元年10月15日(火)	志賀健康いきいき祭実行委員会 地域ニーズについて
イベント	令和元年11月9日(土)	志賀健康いきいき祭
第3回	令和2年3月3日(火)	志賀健康いきいき祭について 移動について
メンバー	学区社協会長、事務局長、保健・医療関係者、地域団体 ほか	
内容	今年度も引き続き、志賀健康いきいき祭を協議体事業とし、地域団体、医療機関、介護事業所、福祉施設、企業と共に開催。地域には健康と福祉を考える1日として定着しており、リピーターも多い。今年度はエンディング講座や在宅療養研修も取り入れ、終末期についても学びの機会を提供した。 また、協議体の検討課題を「移動」とし、地域の現状共有を行った。	
 		

＜北部ブロック＞		
第1回	令和元年10月23日(水)	真野北学区見守り会議準備会
第2回	令和2年2月19日(水)	真野北学区見守り会議
イベント	令和元年10月4日(金)	北部ブロックふれあいサロン交流会
メンバー	自治連会長(兼自主防災)・自主防犯・ふれあいサロン・福祉委員・大津北警察署・北消防署・真野しょうぶ苑・支所長・民児協会長・学区社協会長・学区社協事務局長	
内容	真野北学区見守り会議準備会では、安心して暮らすことができる真野北学区をテーマに、自治連、民児協、学区社協がそれぞれ取り組み事業や真野北学区での見守りの現状について共有した。 真野北学区見守り会議では、3班に別れ各団体の見守り状況、困っていることを共有した。その中で、個々に取り組みを進めても効果が少なく、関係機関が相互に見守りをし、情報を共有することで連携が生まれ、横のつながり、ネットワークづくりや日頃の関係性の大切さをあらためて感じた。真野北学区で進めてもらいやすい仕組みづくりの構築のため今後も開催する。 10/4(金)「北部ブロックふれあいサロン交流会」を開催し、地域における見守り活動の担い手が集まり、情報交換や課題解決を目的に話し合いを進めた。学区社協役員や民協会長に出席いただき、地域の高齢者の居場所づくりについて現状把握と課題を共有していただいた。	



＜比叡ブロック＞		
第1回	令和元年7月3日（水）	令和元年度 第1回 おむすびネット比叡
第2回	令和2年1月23日（木）	令和元年度 第2回 おむすびネット比叡
イベント	令和2年2月7日（金）	令和元年度比叡ブロック 地域福祉交流研修会
メンバー	(第1,2回) 高齢・障害・児童等の分野を超えた福祉専門職、 地域のボランティアグループ (第3回) 上記メンバーに加え、学区社協・民児協・ふれあいサロン実践者など	
内容	<p>地域の役員やボランティア、福祉専門職等、地域福祉の担い手の分野を超えたつながりづくりをねらいとして、以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大津市社会福祉協議会比叡ブロック施設連絡会と合同で、施設の取り組みを地域に発信する冊子づくりを進めた。福祉施設の地域に向けた取組み（地域との交流・物品や場所の貸出等）や災害時の協力内容を、冊子という形にして地域に周知し、日ごろの連携やいざという時の支え合いにつなげる。 ・比叡ブロック社協連絡会を通して、「学区社協が地域の福祉施設に期待すること・協力できること」に関するアンケートを実施。その結果を第2回おむすびネット比叡で発表し、「福祉施設が地域に協力できること・お願いしたいこと」を出し合った。サロンへの登壇等、具体的に連携できるポイントが見つかったので、次年度実現する。 ・比叡ブロック社協事業である比叡ブロック地域福祉交流研修会で、学区社協、民児協、ふれあいサロン実践者等のボランティア、福祉施設の職員の交流会を開催し、互いの活動や地域の困りごとの情報交換を行った。分野を超えた関係づくりの第一歩とし、様々な主体が連携し協働で地域福祉を推進するまちづくりにつなげていきたい。 <p>※昨年度スタートした「フリースペースしんせい」（夜の子どもの居場所づくり）は、週に1回継続して実施している。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>地域と施設の情報共有冊子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>比叡ブロック 地域福祉交流研修会</p> </div> </div>		

＜中部ブロック＞		
第1回	令和元年6月14日（金）	第1回 中部ブロック協議体連携会議
第2回	令和元年12月13日（金）	第2回 中部ブロック協議体連携会議
イベント	令和元年7月20日（土）	「ナカマチサロン」（居場所）開催
	令和元年9月14日（土）	「長寿のつどい」（敬老会）開催
	令和元年11月23日（土）	「京町サロン結」（居場所）開催
メンバー	学区社協会長・事務局長、地区民児協会長・副会長、学区自治連合会会長、特別養護老人ホーム施設長、薬局代表・薬剤師	
内容	<p>長等・逢坂・中央の3学区が対象エリア。</p> <p>① つながりをつくる②見守りの目を増やす③小さな単位での支え合う仕組みをつくるという3つの目的を掲げ、各学区域での活動に取り組んだ。活動を通して、学区内の各種団体だけでなく地元のスーパーや福祉施設と新たに協力関係を築くことができた。</p>	

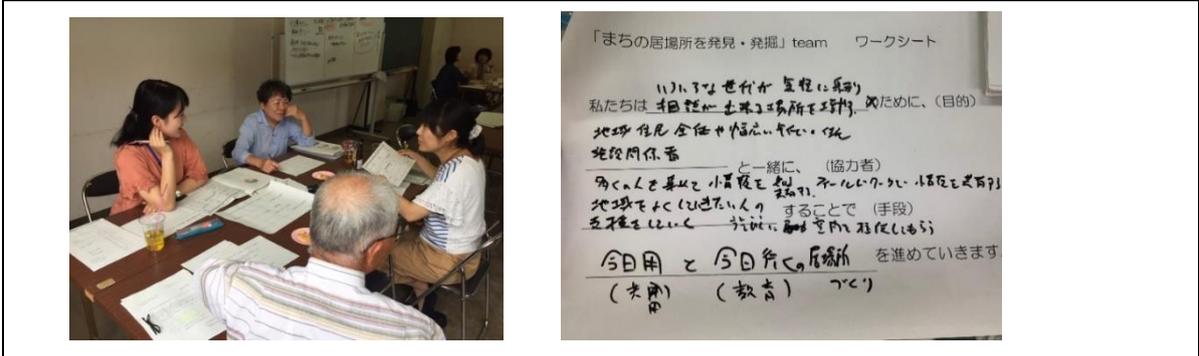


＜中南部ブロック＞		
第1回	令和元年6月21日（金）	第7回 高齢者に関するお悩み共有会
第2回	令和元年11月18日（月）	第8回 高齢者に関するお悩み共有会
企画会議	令和元年5月24日（月）	第7回 高齢者に関するお悩み共有会企画会議
	令和元年8月20日（火）	第8回 高齢者に関するお悩み共有会企画会議
	令和2年2月21日（金）	第9回 高齢者に関するお悩み共有会企画会議
メンバー	晴嵐学区、富士見学区の地域従事者 （自治会長、民生委員、老人クラブ会長、学区社協、商店街など）	
内容	<p>今年度のテーマを、高齢者のお出かけ（移送）とし、情報収集や実態調査を行った。</p> <p>① お出かけに関するアンケートの実施 みなさんの外出についての困りごとについてアンケートを実施し260部回収。 地域の特色や課題を共有した。</p> <p>② 企画委員会の開催 メンバーの一部住民に企画委員になっていただき、会議内容の企画や立案を地域主導で行っていただいた。</p>	

＜南部ブロック＞		
第1回	令和元年9月24日（火）	第1回 田上学区地域づくり連絡会
第2回	令和元年12月9日（月）	第2回 田上学区地域づくり連絡会
第3回	令和2年1月27日（月）	第3回 田上学区地域づくり連絡会
メンバー	自治連（会長）、学区社協（会長・事務局長）、民児協（会長・副会長）、居宅介護支援事業所、ふれあいサロン代表者、自治会長	
内容	<p>各学区の懇談会の充実により、生活支援体制整備を推進する方針で協議体を運営している。</p> <p>行政と住民の懇談の場がなかった田上学区を重点とし、令和元年度は「田上学区地域づくり連絡会」とし話し合いの仲間を増やし、地元でできる高齢者支援が実践に繋がるよう進めてきた。</p> <p>グループワークを通しテーマを「“楽しく！健康に！見守り合いができる田上！”を小地域（自治会単位）で取り組みましょう！」とし、自治会単位の高齢者支援の実践を進める。</p> <p>次年度の協議体については、田上は継続し、石山学区は地域課題に対応した生活支援の取組みについて懇談の場をつくり、南郷学区の地域づくり連絡会を協議体に発展させたい。学区を越えたつながりづくりとしてブロックでボランティアが交流できる場をつくる。</p>	



＜東部ブロック＞		
第1回	令和元年7月23日(火)	『第1回 住みまちプロジェクト』
第2回	令和元年10月30日(水)	『第2回 住みまちプロジェクト』
メンバー	東老人福祉センター、瀬田商工会、民生委員児童委員、レイカディア大学0B、地域の助け合い活動実践者、瀬田包括、瀬田第二包括、市社協	
内容	<p>昨年度の困りごと・ボランティアについてのアンケートから「居場所・ボランティア・リーフレット」の三本柱で進めている。</p> <p>その中で、今年度はリーフレットの作成を進めている。内容は、福祉の相談窓口や実費サービス、配食サービスなどを掲載している。</p> <p>「第1回 住みまちプロジェクト」では、地域の理想像を思い浮かべながらメンバーお一人ずつの得意分野（ボランティア・居場所・交通）に分かれていただき、意見を出しあった。</p> <p>次年度以降も地域の課題や現状を話し合いながら、「地域の困りごとをみんなで考えることのできる場」になるように進めていく。</p>	



③ 生活支援サービス情報発信業務

ア) 「介護サービス情報公表システム」

地域で実施されている高齢者の生活支援サービスに係る情報収集を行い、了解が得られた活動については、厚生労働省が開設するインターネットサービス「介護サービス情報公表システム」を活用し情報発信を行った。

新規公表数	56 件
更新	236 件

イ) 「高齢者の暮らし寄り添い帖」の発行

生活支援サービスに係る情報をブロックごとに冊子にまとめ、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などの専門職が高齢者に紹介できるよう作成した。

④ 生活支援体制整備関係者会議

ア) 市域会議（4回/年）

大津市の生活支援体制整備事業に係る担当者が事業の進捗状況について共有した。

参加者	長寿政策課（地域包括ケア推進室）	3名
	あんしん長寿相談所（社会福祉士）	7名
	本会（地域支援グループ）	8名

イ) エリア会議（1回/月）

本会の第2層生活支援コーディネーターと各あんしん長寿相談所の事業担当者を中心に地域課題を共有し、協議体の設置・運営について検討した。

ウ) コミュニティソーシャルワーカー会議（1回/月）

本会の第1層生活支援コーディネーターと第2層生活支援コーディネーターが地域課題や事業の進捗状況を共有した。

エ) 生活支援体制整備関係者勉強会

大津市の生活支援体制整備事業の推進を図るために、大津市の生活支援体制整備関係者の勉強会に参加した。

令和元年度第1回生活支援体制整備関係者勉強会 「第1回しが住民参加支え合い活動連絡会」	
開催日時	令和元年8月7日（水）13:30～15:30
開催場所	大津市立市民文化会館（多目的ホール）
本会の参加者	7名
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ／滋賀県 2. はじめに 趣旨説明／NPO 法人街かどケア滋賀ネット 谷さん 3. 事例報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 比良里山クラブ／三浦 美香さん 滋賀県「さまざまな人が支え合うお互い様の地域づくり推進事業」（企業提案モデル事業）実施。サロンを開設したが“よろず相談所”のような場ができた。 (2) 神宮町ふれあいサロン／高田 恵子さん 介護予防運動を中心とし定期的にみんなが集まることで、見守り合いができるサロンを運営。 (3) くつき外出サポート隊／小坂 一郎さん・藤沢 悟さん 4. 情報交換会
	

令和元年度第2回生活支援体制整備関係者勉強会 「第2回しが住民参加支え合い活動連絡会」	
開催日時	令和2年2月18日(火) 13:30～16:00
開催場所	草津市立市民交流プラザ
本会の参加者	6名
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 講演／阪南市社会福祉協議会 坂上 尚大 氏 「地域福祉を進めるための“4つのサイクル”」 パネルディスカッション コーディネーター：街かどケア滋賀ネット 顧問 溝口 弘 氏 パネラー：講師・事例報告者3名 【事例発表】 ① NPO 法人地域で創る土曜日「夢の学習」／理事長 摺元圭治 氏 ② スマイルサポート西浅井／世話人 坂井 元嗣 氏 ③ NPO 法人宅老所「心」／理事長 村田 美穂子 氏

⑤ 研修会などへの参加

滋賀県生活支援コーディネーター基礎研修	
開催日時	令和元年7月2日(月) 10:00～16:30
開催場所	滋賀県長寿社会福祉センター (第1研修室)
本会の参加者	3名
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 開会・趣旨説明 講義／武庫川女子大学 文学部 心理・社会福祉学科 松端 克文 教授 「地域福祉と生活支援コーディネーター業務の基本について」 ・地域福祉の基本理解 ・生活支援とは何か ・生活支援コーディネーターと協議体 ～ 休憩 ～ 事例報告・グループワーク① 「生活支援コーディネーターの実際① ～事業の体制・計画と地域へのアプローチ～」 彦根市福祉保健部医療福祉推進課 川崎 孝 (第1層生活支援コーディネーター) 彦根市社会福祉協議会 谷澤 建一 (第2層生活支援コーディネーター) ～ 休憩 ～ 事例報告・グループワーク② 「生活支援コーディネーターの実際② ～話し合いの場づくり～」 高島市社会福祉協議会 地域福祉課 宮田 早苗 (第2層生活支援コーディネーター) まとめ



令和元年度第1回生活支援コーディネーター学習・情報交換会	
開催日時	令和元年9月13日(金) 13:30~16:30
開催場所	明日都浜大津ふれあいプラザ4階(ホール)
本会の参加者	6名
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 講 義 「生活支援コーディネーターの課題をふまえた役割の再確認」 講師：武庫川女子大学文学部 教授 松端 克文 氏 3. 事例報告 「住民と行政・専門職の協働による計画的な生活支援体制整備と生活支援コーディネーターの実践」 報告者：阪南市社協 主任 坂上 尚大氏 (第1層SC) 4. ポイント整理 ～休 憩～ 5. 質疑応答 6. 情報交換 7. まとめ・閉会

令和元年度第2回生活支援コーディネーター学習・情報交換会	
開催日時	令和2年1月20日(月) 13:30~14:20(前半のみ参加)
開催場所	滋賀県立長寿社会福祉センター(第1研修室)
本会の参加者	6名
内 容	<p>講師：武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科 教授 松端 克文 氏</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例報告「米原市における生活支援体制性に事業について」 <ol style="list-style-type: none"> (1) 行政の立場から /米原市健康福祉部暮らし支援課 主任 伊賀並 亮 氏 (2) 生活支援コーディネーターの立場から /米原市社会福祉協議会 地域福祉課 中川 慶則 氏 (3) 活動者の立場から/下坂並自治会 福祉委員 長谷 貞夫 氏

令和元年度第2回大津市地域包括ケア会議研修会	
開催日時	令和元年12月2日(月) 13:30~16:30
開催場所	大津市役所別館1階(大会議室)
本会の参加者	7名
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ 2. 大津市の地域ケア会議/地域包括ケア推進室 木津 嘉弘 室次長 生活支援体制整備事業の現状/大津市社会福祉協議会 森野 道代 3. 講義「地域ケア会議と生活支援体制整備事業」 /一般社団法人 コミュニティネットピエネ代表理事 土屋 幸己 先生 4. グループワーク 「実際の地域ケア会議の悔過から地域の共通課題を整理してみましよう」 5. 発表 6. まとめ

「いきがい・助け合いサミット in 大阪」 共生社会をつくる地域包括ケア～生活を支え合う仕組みと実践～	
開催日時	令和元年9月9日（月）13:00～17:50 令和元年9月10日（火）9:00～15:50
開催場所	大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）
本会の参加者	3名
内 容	<p>【9日】</p> <p>12:35～12:50 オープニングセレモニー 13:00～13:10 開会挨拶 13:10～15:00 全体シンポジウム 15:30～17:50 第1部パネル（分科会1～16）</p> <p>【10日】</p> <p>9:00～11:00 第2部パネル（分科会17～30） 11:00～12:30 昼食休憩／ポスターセッション 12:30～14:30 第3部パネル（分科会31～54） 14:50～15:50 全体発表 ・第1、第2部の30提言発表 ・ポスター入賞者発表</p>

⑥ 退職シニアの参加促進

ア) 「おやじの連絡帳 vol. 4」の発行

地域で活動されている男性の姿を記事にし、退職後の男性が活躍できる場が広がることを期待し作成した。「おやじの連絡帳」を見て、問合せがあり活動に繋ぐことができた。

イ) 「おやじ塾」 同窓会の開催

「おやじ塾」同窓会	
開催日時	令和元年8月23日（金）10:00～12:00
開催場所	明日都浜大津ふれあいプラザ5階（中会議室）
参加者	おやじマイスター6名
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじまりの会 自己紹介 ～わたしの「ふるさと」自慢～ 2. 1限目 回想法「平成30年度 おやじ塾」 3. 2限目 「おやじマイスターの近況報告」 4. 3限目 「おやじマイスターへのお願い」 5. お弁当の時間 6. おわりの会 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

ウ) 地域福祉担い手養成講座「おやじ塾」の開催

地域福祉活動は多くの地域住民がボランティアで支えてきた。しかし、活動の担い手であるボランティアの高齢化、地域への関心の希薄化により担い手不足が課題となっている。

地域に関心はあるが行動につながらない退職シニア男性を対象として、地域への関心を高め、実際の活動につながることを目的に「おやじ塾」を開催した。

令和元年度大津市地域福祉担い手養成講座「おやじ塾」(全4回)			
開催場所	明日都浜大津ふれあいプラザ5階(大会議室)		
内 容	第1回	開催日時	令和元年11月8日(金)10:00~15:00
		テ ー マ	「会社人から地域人へ」
		内 容	講師:「夢コラボ」主宰 松尾やよい先生 地域との関わり方や地域への入り方など、プロの講師からコミュニケーション技法を用いて学んだ。
	第2回	開催日時	令和元年11月15日(金)14:00~14:00
		内 容	知ってください!わたしたち大津市社協の活動を! 大津市社会福祉協議会の活動から地域の実情を知る。家計簿ワークを通し貧困について考える。
	第3回	開催日時	令和元年11月22日(金)14:00~16:00
		内 容	テ ー マ おやじが輝く!活動の組織化と地域の助け合い! 大津市で活躍する「おやじのたまり場」「たすか〜る仰木の里」の活動の組織化について学んだ。助け合いワークにより助け合い活動をイメージした。
	第4回	開催日時	令和元年11月29日(金)10:00~16:00
		テ ー マ	おやじの地域デビュー
		内 容	大津市社協施設連絡会加入の福祉施設で福祉体験を通し地域の福祉施設や施設の現状を学んだ。おやじ塾受講後の活動について皆で考えた。 修了式。



・ 車いすの貸出し事業

緊急の利用や旅行、帰郷などに支障がある人に対し、2カ月間を限度に車いすを貸出した。(無料)

車いすの貸出し事業の利用状況 (件)

	貸出	返却	更新	寄付	合計
令和元年度	89	86	169	7	351

※上記のほか、学区社協では独自に車いすの貸出を実施している。

・地域包括支援センター職員派遣事業

大津市の地域包括支援センターに社会福祉士を5名派遣した。

配置場所：和邇1名、堅田2名、比叡2名、中2名、南1名

・ふれあい給食事業の推進

一人暮らし高齢者に対し、栄養と健康の増進をはかるとともに、地域との交流を深めるために学区社協が主体となって実施している。

今年度は新型コロナウイルスの影響で3月のふれあい給食を中止された学区が目立った。

1) ふれあい給食サービス事業実施一覧

①実施学区 25学区

(葛川、伊香立、真野北、堅田、仰木、仰木の里、日吉台、坂本、下阪本、唐崎、滋賀、藤尾、長等、逢坂、中央、平野、膳所、富士見、晴嵐、南郷、大石、田上、瀬田、瀬田南、瀬田東)

②利用者(実人数) 1,564名(平成30年度1,505名)

③年間給食数 16,115食(平成30年度16,194食)



2) ふれあい給食サービス事業研修会

日時 令和元年7月1日(月) 13:30~15:30

場所 ふれあいプラザ4階ホール

参加者 39名

内容 ・食品衛生セミナー

講師 大津市保健所衛生課 井上 麻衣子 氏

・情報交換会



・ふれあいサロン育成事業

ふれあいサロンのボランティアが出会い情報交換することを目的に例年ふれあいサロン交流会を開催しているが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。

また、本会に登録されているふれあいサロンに対して、ボランティア行事用保険料の一部助成を通して活動支援を行った。

1) ふれあいサロン登録数(令和2年3月31日現在)

①登録数: 202団体

②利用者数: 約3,200名

③ボランティア数: 約1,500名

④年間開催総数: 3,000回

2) ふれあいサロンボランティア行事用保険助成

①助成団体数: 54団体

②助成金額: 286,050円

3) ふれあいサロン交流会

令和2年2月27日、28日の2日間にわたり「知ってあんしん!学ぼう認知症」をテーマに開催予定だったが、新型コロナウイルスの影響で中止した。

市内には200を超えるふれあいサロンがあり、地域性を活かしながら、様々な取り組みを行った。

目標 2) 一人ひとりが生きる力を高めあい支え合える地域コミュニティづくり

(1) 福祉学習の推進

① 新たな福祉学習の開発に努めます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
個別のニーズに対応したプログラムを提案します。また、子どもの頃から福祉体験ができるよう、福祉教育担当者の情報交換会や社会福祉施設での受け入れについて調整を図ります。	学校教育の中で行われる福祉体験等について、施設連絡会の会員施設に協力いただいた。事前の打ち合わせを行うことで、学校側の意向に沿った体験を実施した。 福祉施設が提供できるメニューを一覧にし、学校に提供した。	学区で実施される寺子屋プロジェクト等のメニューに子ども向けのプログラムを取り入れる。引続き、施設連絡会の会員施設に、福祉体験等の協力を依頼する。
② 地域の中で福祉を学べる場を増やします		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
身近な地域で福祉学習ができる機会として、福祉のまちづくり講座を学区社協で開催し、地域の力を活用した福祉学習の場づくりを推進します。	学区社協が開催する福祉のまちづくり講座で、講師を紹介した。 市社協も出前講座のメニューを開発し、地域に出向いた。	本会が提供できる出前講座メニューを充実させる。

主な事業

・福祉のまちづくり講座助成事業

学区社協では、安心して暮らし続けることのできる福祉のまちづくりを目指して、各種の講座やつどいが開催された。

実施学区：35 学区（平成 30 年度 36 学区）

実施講座：125 講座（平成 30 年度 163 講座）

参加人数：6,783 名（平成 30 年度 11,763 名）

講座内容は多種多様で、多くの住民が参加された。

令和元年度 福祉のまちづくり講座 実績報告											
学区	回数	(日種・場所) 内容	参加人数	(日種・場所) 内容	参加人数	(日種・場所) 内容	参加人数	(日種・場所) 内容	参加人数	(日種・場所) 内容	参加人数
小松	4	6/27 小松学区社協・人権協合同研修会	50	8/9 親子ふれあいバス研修	53	9/3 小松小学校遠泳大会	190	2/22 木戸・小松学区社協・人権協合同研修会	80		
木戸	4	7/25 工作体験	38	2/1 ふれあいサロン代表者交流会	15	2/8 そば打ち教室	25	2/22 人権研修会	70		
和道	2	5/25 福祉委員研修 福祉・介護について	31	2/15 学区内の福祉施設との情報交換会	36						
小野	5	5/25 体力測定	71	5/25 福祉委員研修会	55	12/3 ふれあいサロンバス研修	60	2/1 法律相談	58	2/1 介護相談	57
喜川	2	7/9 健康教室	19	10/17 健康教室	20						
伊香立											
真野	4	7/11 夏のお元気サロン	130	11/13 秋のお元気サロン	150	12/14 そば打ち体験	20	2/8 親子でお菓子づくり	40		
真野北	4	5/26 第1回福祉委員会	37	9/7 学区福祉交流会	54	7/6 第2回福祉委員会	25	9/25 地域福祉講座	42		
監田	4	4/17 ふれあいサロン	41	7/17 ふれあいサロン	39	11/20 ふれあいサロン	31	12/18 ふれあいサロン	81		
仰木	3	6/18 福祉委員研修会	18	11/24 防災研修	145	2/14 視察研修	17				
仰木の里	2	5/16 いきいき交流会	116	2/2 立事のつどい	65						
雄琴	6	10/3 おおつ光ル君体験	16	10/10 おおつ光ル君体験	15	10/17 おおつ光ル君体験	13	10/19 おおつ光ル君体験	18	10/23 おおつ光ル君体験	12
		11/7 おおつ光ル君体験	11								
日吉台	5	6/12 出前講座 介護予防講座	38	9/14 出前講座 もの忘れ講座	47	10/30 視察研修	43	11/27 ふれあいサロン講座「音楽療法」	73	2/12 出前講座 介護や高齢期について学ぼう	39
坂本	2	10/23 福祉のまちづくり講座	21	2/26 福祉のまちづくり講座	18						
下阪本	5	11/6 健康とふれあい広場	10	11/13 健康とふれあい広場	13	11/19 健康とふれあい広場	15	11/26 健康とふれあい広場	19	11/29 健康とふれあい広場	27
香崎	3	9/1 からまき福祉フェスティバル	300	11/4 Aブロック 地域交流のつどい	360	12/8 Cブロック 地域交流のつどい	18				
池賀	3	5/6 福祉委員全体会議	48	5/26 福祉委員民生委員交流会	52	6/16 地域ふれあいサロン交流会	25				
山中比叡平	4	6/1 土曜びばカフェ	64	8/24 踊だまり実習会	14	10/11 稲刈り祭	12	1/5 世代間交流	90		
藤尾	2	6/21 福祉委員・民生委員合同研修	40	9/18 バス研修	39						
真等	2	6/4 社協・民児協福祉委員合同 問題視察会	65	1/26 防災講座	70						
遠坂	4	5/30 福祉委員民生委員合同研修会	48	7/2 セタの集い	74	11/30 福祉委員民生委員合同研修会	46	12/17 クリスマス会	129		
中央	4	5/21 福祉のまちづくり講座①福祉委員の役割	44	6/29 福祉のまちづくり講座②見つけてみよう自分だけのいも	66	2/22 福祉のまちづくり講座③介護予防講座	42	7/11 バス研修 神戸市	22		
平野	4	7/28 福祉のまちづくり講座	28	6/29 11/2 2/29 福祉委員意見交換会	70	8/26 福祉委員民生委員合同研修	54	11/24 防災講座	38		
穂所	5	6/29 福祉講座	50	9/21 福祉講座	45	10/19 福祉講座	60	12/1 コーリング大会	40	2/8 福祉講座	60
富士見	5	5/29 福祉講座「高齢者交通安全教室」	20	7/19 福祉講座「知って得する健康長寿」	31	10/23 高齢者防犯教室「探り込め詐欺」	82	11/29 視察研修	19	2/23 福祉講座「認知症と介護予防」	29
晴嵐	3	6/1 まちづくり講座	64	10/23 ふれあい給食秋のつどい	35	11/29 視察研修	25				
石山	5	10/23 詐欺に気を付けよう	24	10/30 詐欺に気を付けよう	17	11/8 詐欺に気を付けよう	25	11/18 詐欺に気を付けよう	23	11/27 詐欺に気を付けよう	26
南郷	2	7/2 福祉関係者合同研修会	41	9/16 歌者・すこやかをつどい	67						
大石	5	6/9 いきいきふれあい広場	37	8/11 いきいきふれあい広場	30	10/19 いきいきふれあい広場	50	10/20 いきいきふれあい広場	20	10/27 いきいきふれあい広場	24
田上	2	10/10 わくわく広場	110	ママ友広場(11回)	108						
上田上	3	10/24 健康いきいき講座	25	11/3 文化祭への出店	50	1/18 世代間交流	110	2/6 健康講座	35		
青山	5	5/25 福祉委員研修会	25	6/20 シニアの集い	72	9/8 福祉のまちづくり講座 HUG	45	1/26 福祉のまちづくり講座 DIG	45	2/19 シニアの集い	75
瀬田	4	5/11 民生委員との合同研修会	48	5/14 グラウンドゴルフ大会	59	6/1 ベタング大会	30	6/30 子ども防犯教室	120		
瀬田北	1	11/23 福祉のつどい	87								
瀬田南	5	6/8 福祉委員研修	53	7/13～10/30 計8回 手話教室	40	9/19 男の料理教室	17	11/14 視察研修	26	2/15 料理教室	24
瀬田東	2	10/31 薬物乱用防止講座	300	11/23 福祉のつどい	50						
	125		2168		2074		1080		1088		373
								合計			6783名

・社会福祉大会の開催

本会と大津市の共催で開催した。

社会福祉の向上にご尽力いただいた方々に対して表彰状、感謝状を贈呈した。

- 1) 日 時 令和元年 11 月 15 日 (金)
- 2) 会 場 大津市和邇文化センター
- 3) 内 容 ・表彰状及び感謝状の贈呈 (個人 199 名、9 団体)
・講演 『みんな奇跡のいのち』 講師 林 ともこ 氏
- 4) 参加者 300 名

・実習生の受け入れ

本会では、社会福祉士のための実習、司法修習生の実習など、様々な実習生を受け入れている。実習生の受け入れを通して、大学等との連携が深まり、職員が日頃の活動や事業の意義を再認識する機会になった。

日 程	学 校	人数
8 月 13 日 ~9 月 15 日 (24 日間)	立命館大学	1
8 月 13 日 ~9 月 12 日 (24 日間)	花園大学	1
8 月 13 日 ~9 月 15 日 (24 日間)	同志社大学	1
10 月 24 日~10 月 25 日 (2 日間)	司法修習生	7
11 月 1 日 ~12 月 4 日 (23 日間)	龍谷大学	2
11 月 14 日 (1 日間)	守山高校	1
延べ合計 98 日間		13 名

・福祉教育・体験事業

人権教育や他者理解を進めるため、福祉教育・体験事業をつうじて、学校や団体、企業、地域で行われる講座や体験などの企画の相談、講師の紹介及び調整、体験用具の貸出(下記 5 種類) など、様々な支援を行った。

また、施設連絡会会員施設のご協力をいただき、施設職員に講師を担っていただいた。

1) 福祉体験・企画相談 44 件 (4 件増)

(小学校 22 件、中学校 10、高等学校 3 件、専門学校 1 件、大学 2 件、施設 2 件、企業 2 件、団体 2 件)

施設連絡会との連携により、新たに 2 施設に高齢者介護施設職員に高齢者体験の指導を担っていただくことができ、次世代の学生に福祉専門職の果たす役割等語ってもらった。

2) 体験用機材保有数

- ・車いす …11 台
- ・アイマスク …118 枚
- ・点字器 …127 枚
- ・白杖 …1 本
- ・高齢者体験グッズ…20 セット (新調)

福祉の職場に関心を持ってもらえることを期待して、新たな施設にも指導を協力いただいた。



あんしん長寿の職員による高齢者体験



小学校での高齢者体験

(2) 生きる力を育む場づくり

① 一人ひとりの受援力を高めるとともに、地域で助けあえる関係づくりを進めます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
「自分のことは自分です」という考えが、悩み事を抱えたときには「人に頼ることは恥ずかしい」という要因になってしまい、孤立化にもつながることが考えられます。一人ひとりが自己責任ではなく、普段から「助けて」と言いあえる関係づくりを進めます。	学校、行政、福祉施設と連携して、フリースペースに新たな子どもをつなげた。学校や行政との連携を深めながら、子どもだけでなく世帯全体の支援を継続している。 また、要保護児童対策地域協議会の対象児童を、その子の地元で実施している子どもの居場所づくり事業に参加できるよう調整した。	子どもが地域の中でSOSを出すには、身近な大人と顔見知りになることが必要。地域や市社協内他グループと連携を図り、支援が必要な子どもを地域の子どもの居場所（寺子屋・子ども食堂等）につなげる調整を行う。

② 地域のニーズにあわせた新しいしくみをつくります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
支えあい、見守りは実際には各々地域で行われている取り組みです。それぞれの地域で手助けや気遣いの気運を高め、お互いに地域での生活を支えていけるよう、地域に応じた活動づくりを支援します。	真野北学区は多様な団体が見守り活動を行っているが、その連携の大切さに着目し皆で力を合わせて見守り体制を構築するため「見守り会議」が始まった。自治連、自主防災、自主防犯、学区社協、民児協をはじめ警察署や消防署、ふれあいサロンの代表者などが、「地域で安心して暮らすために、みんなで一緒に見守り力を高め合おう！」をテーマに話し合いを進めている。	「見守り」をとおした地域の連携が、新たなまちづくりのきっかけになるように調整、支援する。

主な事業

・生活支援物資の受け入れと活用

離職や病気療養等で経済的に困窮しておられる方の相談が、年間を通じて多く寄せられており、生活福祉資金等の貸付や生活保護などの公的制度を受けるまでの間、緊急的な支援として食料品を提供している。この取組みは、広報「ひまわり」や学区社協や地区民児協を通じて生活支援物資の提供をお願いし、市内の地域住民や企業等からの寄付で成り立っている。

皆様から提供いただいた生活支援物資については、生活困窮者自立支援事業と一体的に行い、天津市生活福祉課、地域包括支援センター、NPO法人大津夜まわりの会、NPO法人リバティィ・ウィメンズ・ハウスおりーぶ等と連携し、支援の必要な方へ効果的に提供した。

令和元年度 提供件数

(件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和元年度合計
56	53	26	35	41	52	38	44	42	36	42	62	527

(平成30年度合計526件)

ご寄附いただいた生活支援物資の内容と量

米	872 k g	缶詰	825 点
インスタントラーメン	3,903 食	レトルト食品	2,058 食
パスタ・乾麺	321 点	のり・調味料	724 点

効果：生活相談を受ける中で、地域の皆様からご寄附いただいた支援物資の活用によって、相談者の不安が軽減できており、よりスムーズな相談援助ができています。

・子どもの学習支援事業

①トワイライトステイ

生活が困窮していることや親が病気や障がいを抱えていること等家庭に課題があるため、学校に行きにくく、社会から孤立する子どもたちに対し、夕方から夜の居場所を地域につくり、生活意欲や学習意欲、自己肯定感の向上を図ることを目的とする。

実施場所：4か所 年間延べ187回実施

参加者：小学生9名・中学生3名 延べ449名参加

ボランティア：延べ627名

ねらい：居場所づくり、学習支援、食の確保、
世代間の交流、ボランティア同士の交流

協力：NPO法人こどもソーシャルワークセンター
(2ヶ所)、NPO法人あめんど(2ヶ所)



大学生ボランティアと遊ぶ

②寺子屋プロジェクト

長期休暇中等の宿題、学習及び生活学習の支援並びに地域でのつながりや居場所づくりを目的に、地域の子どもを地域で育む地域福祉活動。

実施学区：24学区社協

小松・木戸・和邇・小野・真野・真野北・堅田・雄琴・日吉台・坂本・下阪本・
唐崎・長等・藤尾・逢坂・中央・平野・富士見・石山・上田上・青山・瀬田南・
瀬田・瀬田東

実施時期：長期休暇中、休日等

参加者：延べ5,716名の子どもたち

ボランティア・スタッフ：延べ2,304名

内容：宿題支援、居場所づくり、
調理実習、スポーツ等

【効果】

- ・参加児童の中には、家庭的な問題を抱えている子どももいる。寺子屋に参加することで子どもたちの休み期間中の様子を確認できて良かった。
- ・課題を持つ子どもも落ち着いた学習環境に慣れ、集中して学習できるようになった。



みんなで長期休暇中の宿題（夏休みの勉強・冬休みの書初め）

③フリースペース

フリースペースは、トワイライトステイと同様、しんどさを抱える子どもが安心して過ごせる夜の居場所である。週に1回、福祉施設を活用し、子どもが支援者やボランティアと一緒にご飯を食べたり、お風呂に入ったりして過ごす。福祉施設、子どもと専門的に関わるワーカーやボランティアがチームになり、子どもの居場所を地域で作った。

フリースペースカーサ	
実施日時	毎週木曜日 17:30~20:30
参加者	小学生3名、未就学児1名
場所	特別養護老人ホーム カーサ月の輪
開始時期	平成27年3月
実施回数	41回



たこ焼きパーティー準備

フリースペースかなで	
実施日時	毎週金曜日 17:00~20:00
参加者	小学生2名
場所	小規模多機能型住宅介護事業所 時間の奏
開始時期	平成27年7月
実施回数	44回



子どもらしく大人に甘える

フリースペースアイリス	
実施日時	毎週木曜日 17:30~20:00
参加者	小学生1名
場所	特別養護老人ホーム近江舞子しょうぶ苑
開始時期	平成28年2月
実施回数	39回



クリスマス会

フリースペースしんせい	
実施日時	毎週木曜日 17:30~20:00
参加者	小学生2名
場所	特別養護老人ホーム 真盛園
開始時期	平成30年10月
実施回数	32回



ボードゲーム

④子ども食堂

地域ぐるみで子どもを大切にすの垣根のない居場所として、食事、学習、遊び等を通して、子どもが安心してだれかとともに過ごすことができる場所を地域の人々の思いと工夫で作っている。市内で22カ所、県内で130カ所と大きく広がっており、大津市社協では、立ち上げ支援、継続支援等を行っている。

No.	学区	子ども食堂名	実施団体名	特徴	実施場所
1	小松	ぱっぱ屋	冒険遊び場小松プレーパークをつくる会	野外でのアウトドアクッキング	南小松八幡神社前コミュニティ広場
2	堅田	かたばみ食堂	堅田の子を見守る《かたばみ》の会	堅田学区の幼児~中学生を対象に実施	堅田市民センター
3	仰木	チッチサロン	一般社団法人 楽育チッチ	卒園生、保育士から相談を受け、気になったお家を訪問、チラシをポスティングしている	一般社団法人 楽育チッチ
4	日吉台	子ども食堂 ひよしだい	日吉台学区 社会福祉協議会	アレルギー対応のカレーを用意している	日吉台市民センター
5	坂本	おいわか子ど	社会福祉法人真盛	誰でも寄れる地域の居場所で子ど	地域交流セン

		も食堂「おいで屋」	園 地域交流センター 「老いも若さも」	も食堂を実施	ター「老いも若さも」
6	坂本	坂本民主食堂	しが健康友の会	親の迎えがない子をスタッフが家まで送っている	しが健康友の会ホール
7	唐崎	出会い食堂よっといで〜	若葉町自治会 ピアンネ	オープンな居場所であるが、気がかりな子どもへピンポイントで声かけしている	若葉町自治会館
8	唐崎	松の実みんなの食堂	松の実保育園	子どもを「お客さん」にするのではなく、調理実習等を通じて一緒に育ちあうことを大切にしている	松の実児童クラブ
9	唐崎	どんぐりの家	どんぐりの家	元学童保育の先生が運営	どんぐりの家
10	長等	eatalk	NPO 法人こどもソーシャルワークセンター	トワイライトステイ実施団体による子ども食堂	こどもソーシャルワークセンター
11	長等	野洲のおっさんこども食堂	株式会社まちおこし	食堂の2階を利用した子ども食堂	野洲のおっさんおにぎり食堂2階
12	平野	子ども食堂平野学区のぞみ	平野学区母子福祉のぞみ会	平野学区のぞみ会が実施する子ども食堂	平野市民センター
13	平野	子どもたちの学習支援と居場所づくり in のぞみ食堂	社会福祉法人滋賀県 母子福祉のぞみ会	滋賀県のぞみ会が実施する子ども食堂	母子福祉施設のぞみ荘
14	平野	勉強タイム&子ども食堂(ご飯会)	NPO グレースコミュニティサービス 大津	参加者は打出中学校の生徒が中心	アッセンブリー大津キリスト教会
15	膳所	キッズカフェ・エンジェライト	子育て Happy エンジェライト	地域の気がかりな子どもにも声かけして少人数で実施している	占いカフェ恐竜や
16	膳所	ぜぜこども食堂	ぜぜこども食堂運営委員会	乳児から大人まで幅広く参加している	膳所ふれあいセンター
17	膳所	膳所子どもカレー食堂	ZeZe まなびや	子どもは未就学児～中学生、保護者も参加している	天理教湖南分協会
18	晴嵐	晴嵐みんなの食堂	NPO 法人 CASN	オープン型(だれでも、どの地域からも参加OK)、クローズ型(しんどさを抱えた子ども対象)に日程を分けて開催	土曜日: 栄3自治会館 水曜日: らんらんサロン
19	富士見	ふじみ「子どもサロン」	富士見学区 社会福祉協議会	地域の気がかりな子どもを受入れ。トワイライトステイ参加児童もつながっている	富士見市民センター
20	石山	石山わくわくひろば	大津市里親会	里親家庭の参加もある	石山市民センター
21	田上	田上っ子食堂	田上学区青少年育成 学区民会議	学区民会議が地域の方を巻き込んで実施。いじめ対策推進室の出前講座を年1回開催している	田上市民センター
22	瀬田東	まごころレストラン	任意団体チエルキオ	瀬田東学区社協寺子屋プロジェクトと連携している	瀬田東市民センター

⑤新型コロナウイルス感染症予防対策にかかる臨時的子どもの居場所助成事業

新型コロナウイルス感染症予防対策として、大津市においても3月3日から幼小中高校が休校になり、支援を必要とする世帯やひとり親世帯の子どもたちの居場所や食の確保、生活全般に対する不安が広がった。そんな中、NPO法人こどもソーシャルワークセンターでは、子どもや若者の日中を過ごす第3の居場所として現行週2回の活動を拡大して、週5回開催されることとなった。大津市社協では、地域の子どもの支える目的で、NPO法人こどもソーシャルワークセンターの居場所事業に対し、300,000円を助成した。

・アディクションフォーラム実行委員会の運営支援

薬物・ギャンブル・アルコール依存症など様々な依存症（アディクション）を抱えた当事者や家族、関係機関や住民が依存症の理解を深めることを目的としてアディクションフォーラム in 滋賀の開催を支援した。

第12回 アディクションフォーラム in 滋賀

仲間を見つけた、希望を見つけた

～#依存#アルコール#薬物#ギャンブル#つながろう#自助グループ～

日時：令和元年8月4日（日）10時00分～15時30分

会場：明日都浜大津 ふれあいプラザホール

内容：①仲間の話（当事者、家族からのメッセージ）

②グループインフォメーション

③びわこダルク 「淡海響組」による和太鼓の演奏

④講演「依存症 の理解と支援」～やめさせようとししない依存症支援～

講師：成瀬 暢也（なるせ のぶや）氏

⑤仲間の表現展

参加者：151名

実行委員会：12回



・大津市ファミリーサポートセンター

大津市ファミリーサポートセンターは、育児の援助をしてほしい人（おねがい会員）と援助できる人（まかせて会員）が会員となって育児の相互援助活動を行い、地域の子育て支援、福祉の向上を図ることを目的とし、安心して生活できる環境づくりを応援している。

1) 活動状況について(令和元年度4月～3月)

会員数

	令和元年度 3月末会員数	年度内入退会		
		入会	退会	増減
おねがい会員	1,609人	144人	56人	88人
まかせて会員	420人	25人	16人	9人
どっちも会員	345人	24人	8人	16人
合計	2,374人	193人	80人	113人

おねがい会員からどっちも会員、どっちも会員からまかせて会員への変更も積極的に働きかけた。

		依頼者側		援助者側		
		おねがい会員	どっちも会員	まかせて会員		
会員の状況	(区分)					
	対象者数	1,609人	345人	420人		
	年齢分布	～30代	36%	～30代	27%	～40代
40代		54%	40代	56%	50代	28%
他		10%	他	17%	60代～	53%

子ども年齢別活動集計

年齢	0歳～2歳	3歳～5歳	6歳～12歳	13歳以上	合計
件数	804 (13%)	1,408 (23%)	3,466 (57%)	439 (7%)	6,117件

活動内容・件数

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保育所・幼稚園の登園前の預かり	12	1	12	3	5	8	2	2				9	54
保育所・幼稚園の送り	36	30	59	47	33	35	37	35	50	38	32	34	481
保育所・幼稚園の迎え	29	49	85	89	39	45	74	70	83	73	76	39	764
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	22	20	30	29	10	17	33	36	33	31	36	11	316
児童の登校前の預かり	42	66	71	47		25	76	64	63	57	64	18	660
児童の学校等の送り	78	112	125	104	29	39	131	132	126	122	128	27	1199
児童の学校終了後の迎え	22	29	31	22		19	45	34	27	33	32	1	308
児童の学校終了後の預かり	15	8	14	13	8	13	17	28	27	24	8		193
児童クラブの迎え	15	27	38	31	10	27	37	29	19	27	28	6	296
児童クラブ終了後の預かり	19	13	30	22	8	35	29	21	23	15	24	6	231
子どもの習い事等の場合の援助	18	26	47	58	25	29	62	59	46	53	58	21	531
保育所・学校等休みの時の援助	9	8		16	36	7	6		7		2	8	95
保育所等施設入所前の援助				2									2
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	26	21	18	34	21	18	24	27	15	16	28	20	268
保護者等の求職活動中の援助			1							1			2
他の子どもの用事の場合の援助	10	14	18	13	2	6	15	20	10	8	9		122
保護者等の外出の場合の援助	25	15	7	20	18	1	21	25	20	18	8	7	198
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	20	19	6	4	1	1			5	2	1	1	60
保護者在宅時の援助	36	45	38	43	20	27	31	24	15	10	24	24	329
その他	3			2			1						8
合計	437	503	630	597	267	362	641	606	569	528	558	232	6117

内訳	保育所・幼稚園にかかわる援助	小学校・児童クラブにかかわる援助	その他
	1,615件 (26.4%)	2,887件 (47.1%)	1,615件 (26.4%)

※活動状況について

- ・令和元年度一年間の活動件数は6,117件で、前年度より1,501件増加している。一人の方がほぼ毎日依頼されるケースもあり、年毎に件数の増減がある。また、一人の援助会員が複数 を掛け持ちされているケースもある。
- ・“母が在宅時の育児サポート”の増加傾向にある。兄弟を母と一緒にサポートしてほしい、子育てを助けてほしいなど、周りに頼る方がなく、育児不安・社会不安を抱えることで、利用されるケースがある。

ブロック別・学区別 会員数と活動状況

ブロック	学区	会 員 数				依 頼 状 況		援 助 状 況	
		おねがい	まかせて	どっちも	計	依頼件数	依頼実人数	援助件数	援助実人数
志賀	小松	3	2	1	6	0	0	0	0
	木戸	14	1	1	16	72	1	65	1
	和邇	20	4	5	29	60	3	67	3
	小野	12	3	2	17	833	2	847	2
	小計	49	10	9	68	965	6	979	6
北部	葛川	0	0	0	0	0	0	0	0
	伊香立	4	1	3	8	0	0	0	0
	真野北	6	5	3	14	7	1	0	0
	真野	31	5	4	40	65	2	94	4
	堅田	42	15	13	70	649	9	421	6
	仰木	2	2	0	4	0	0	0	0
	仰木の里	55	25	12	92	269	5	445	3
	小計	140	53	35	228	990	17	960	13
比叡	雄琴	18	6	7	31	0	0	0	0
	日吉台	7	10	1	18	23	1	23	1
	坂本	25	12	9	46	380	5	307	4
	下阪本	41	8	11	60	44	4	115	3
	唐崎	62	19	12	93	21	3	27	3
	小計	153	55	40	248	468	13	472	11
中部	滋賀	86	20	26	132	363	6	341	9
	山中比叡平	7	6	6	19	0	0	0	0
	長等	84	20	17	121	100	8	172	7
	藤尾	13	7	2	22	1	1	0	0
	逢坂	77	14	11	102	423	8	332	7
	中央	79	11	12	102	616	15	588	6
	小計	346	78	74	498	1,503	38	1,433	29
中南部	平野	188	50	50	288	535	31	649	24
	膳所	75	26	16	117	54	6	91	5
	晴嵐	117	32	13	162	369	12	369	10
	富士見	50	13	5	68	113	5	9	1
	小計	430	121	84	635	1,071	54	1,118	40
南部	石山	30	6	11	47	9	3	3	2
	南郷	18	17	7	42	2	1	6	3
	大石	9	4	0	13	0	0	0	0
	田上	19	7	5	31	5	1	5	1
	小計	76	34	23	133	16	5	14	6
東部	上田上	2	1	1	4	0	0	0	0
	青山	74	12	23	109	388	5	384	6
	瀬田	93	10	23	126	117	4	203	7
	瀬田南	76	15	9	100	40	5	20	1
	瀬田北	83	16	13	112	359	10	309	8
	瀬田東	89	16	11	116	200	8	225	5
	小計	417	70	80	567	1,104	32	1,141	27
合計		1,611	421	345	2,377	6,117	165	6,117	132

(人) (件) (人) (件) (人)

ブロック、学区別の会員数・依頼、援助状況は、ファミリーサポートセンターの対象となる子ども（0～18歳）が多い地域、また継続して依頼される会員の人数や利用回数により、件数が増加する傾向にある。

2) 講習会・交流会

回	日 時	内 容	参加者	アンケートより
1	6月13日(木)	「乳幼児の保育と子育て支援」 「大津市ファミリーサポートセンターについて」 講師：大津市ファミリーサポートセンター 大西 知子 山根 美香	7名 (託児4名)	地域でサポートしてもらえると、子育てが安心して心強い。年齢毎の子どもの特徴、それに合わせた預かる側の心構えを知ることができた。
2	6月21日(金)	ファミサポ交流会 「交通安全講習・おしゃべりとミニ手作り(エコクラフト)」 講師：JAF 滋賀支部 生田 真氏	11名 (託児2名)	映像での生々しい実態から、安全運転の意識がより高まった。チャイルドシートの正しい取り付け方を学べ参考になった。手作りとおしゃべりが楽しかった。
3	7月11日(木)	「子どもの成長と心の発達」 講師：子ども発達相談センター 発達相談員 平野 美香 氏	22名 (託児6名)	年齢毎の子どもの発達がよく理解できた。見通しを持つことで、子どもとの関わりに余裕と安心が生まれた。ほめ上手になるお話が聞けてよかった。
4	9月10日(火)	「子どもの気になる姿・障害についての理解とかかわり」 講師：子ども発達相談センター 発達相談員 平野 美香 氏	21名 (託児5名)	障害のある子どもへの対応について具体例を多く知ることによって参考になった。身近に発達障害を考える良い機会となった。
5	10月10日(木)	ファミサポ交流会 「リフレッシュヨガ」 講師：ヨガインストラクター 杉本 智佳子 氏	20名 (託児4名)	とても落ち着いた雰囲気の中で心地よくリフレッシュできた。ストレッチできて日頃の運動不足が気持ちよく解消できた。
6	10月23日(水)	「赤十字幼児安全法①」 講師：日本赤十字社 岩永 止美子 氏 高橋 洋子 氏・渡邊 優子 氏	20名 (託児6名)	<p>以前に教習所で「心肺蘇生法」を習ったが習得したとは言いきれず、3日間という時間をかけて体になじませるのは大切だと感じた。いざという時、自信を持って対応できると思った。</p> 
7	10月24日(木)	「赤十字幼児安全法②」 講師：日本赤十字社 岩永 止美子 氏 岡田 真由美 氏・川瀬 久美 氏 荻郷 美紀 氏	20名 (託児6名)	
8	10月25日(金)	「赤十字幼児安全法③」 講師：日本赤十字社 岩永 止美子 氏 飯田 順子 氏・赤井 真理 氏	21名 (託児6名)	
9	10月25日(金)	「赤十字幼児安全法 検定試験」	17名 (託児4名)	繰り返しの実技練習と、しっかりと振り返りができる良い機会となった。時代とともに変化していることもあるので、改めて勉強になった。
10	11月14日(木)	「子どものあそび ～たのしくあそぼう～」 講師：膳所保育園 真鍋 啓美氏 比良保育園 田中 直美氏	22名(子ども19名)	色々な手遊びや身近なもので作るおもちゃなど大変参考になり楽しかった。親子で参加でき一緒に遊べる機会は、子どもも喜んでいました。
11	12月6日(金)	「子どもの食生活と楽しい食事」 講師：幼児政策課 管理栄養士 富田 麻里絵 氏	8名 (託児6名)	子どもの年齢に応じた食事や援助する際の注意点が詳しく理解でき参考になった。
12	12月14日(土)	クリスマス交流会 「おひさま楽団 コンサート」	35名 (子ども32名)	歌ありパネルシアターありで時間が経つのも忘れるくらい楽しく過ごせた。珍しい楽器に触れるという貴重な体験ができよかった。
13	2月13日(木)	「子育てを取り巻く状況～虐待相談からみえるもの～」 講師：子ども家庭相談室 相談員 山本 一代 氏	12名 (託児7名)	子どもが安心して健やかに育ってくれるために、自分は何ができるのかを考える機会になった。「責めても人は育たない」本当にそうだったと思った。



講習会「赤十字幼児安全法」



交流会「リフレッシュヨガ」



講習会「子どものあそび」

3) ファミサポ登録説明会の開催

「ファミリーサポートセンター」を広く市民に周知すると共に、まかせて（援助）会員の増員を目的に、年間5回実施した。説明会の参加は少なかったが、飛び込みで来られる方には、随時説明や登録受付を行った。紹介で登録される方もあり、繋がりや輪が広がっていると感じている。

4) その他

①援助活動における自家用車の使用について

平成27年9月より、援助会員の自家用車を使用する活動を開始する。家から保育園が遠い、習い事の場所が離れているなどで、車でないとサポートできない場合に、安全面に十分配慮し、双方で誓約書を取り交わすことで使用は認めている。タクシー替わりの使用はしないことを原則としている。

②大津市社会福祉大会にて感謝状贈呈

ファミリーサポートセンター援助会員として、長年、活動いただいた会員に「大津市社会福祉協議会会長感謝状」を贈呈した。援助会員あって成り立っている活動であると改めて感謝している。令和元年度は3名に贈呈した。

・ 追悼事業

1) 無縁墓地、旧大津陸軍墓地の法要

無縁仏ならびに旧陸軍墓地に埋葬納骨されている諸英霊の冥福を祈るため総合法要ならびに巡回法要を実施した。

日 時	令和元年8月27日(火)
巡回法要	堅田霊園メモリアルパーク堅田→坂本無縁墓地→旧大津陸軍墓地→三井寺無縁墓地→大津聖苑火葬場納骨堂→上田上無縁墓地→南郷無縁墓地
総合法要	西福寺(大津市春日町6-10)
導 師	西福寺 黒川 上人(総合法要、旧陸軍墓地) 西蓮寺 吉水 邦応 上人(総合法要、巡回法要) 幻案寺 増本 俊幸 上人(総合法要、巡回法要)

2) 功労者顕彰碑法要

本会に功績があり、故人となられた方に対して感謝の意を表する「功労者顕彰碑」前において追悼法要を実施した。

日 時	令和元年8月27日(火)
場 所	西福寺(大津市春日町6-10)
導 師	西福寺 黒川 英正 上人

(3) 小地域における福祉のまちづくりの基盤強化

① 学区社協の運営と活動への支援を行います

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
学区社協において、地域のニーズを地域で考え、課題を解決していくことができるよう、学区社協地域福祉活動計画の作成及びそれに基づく活動を支援するなど、地域福祉活動の基盤づくりを行います。	学区地域福祉活動計画（学区社協の手引き）を作成支援し、学区社協活動の整理、地域のニーズ把握、地域課題の共有をとおり、学区社協の活動が充実するように支援した。 作成学区…9学区 伊香立、堅田、仰木、雄琴、坂本、中央、膳所、富士見、瀬田東	地域福祉活動計画（学区社協の手引き）を全学区社協で作成する。

② 福祉委員の役割の明確化を図ります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
福祉委員は身近な地域でのサロン活動や見守り・声かけ、支えあい活動の中心となり、自治会と学区社協とのつなぎ役を担っています。今後も福祉委員の役割や位置づけ、民生委員児童委員との関係を明確にするとともに、あり方について検討を行います。	地域福祉活動計画（学区社協の手引き）内において、学区単位での福祉委員の役割や位置づけを再確認した。 作成学区…伊香立、仰木、堅田、雄琴、坂本、中央、膳所、富士見、瀬田東	地域福祉活動計画（学区社協の手引き）の作成を通じて、全学区において、学区単位での福祉委員の役割を明確にしていく。福祉委員の選出について、学区社協の基盤強化とともに検討を進める。



主な事業

・民生委員児童委員の活動支援

市内 36 地区の民生委員児童委員協議会連合会の事務局として、民生委員児童委員を対象とした相談活動セミナーや民生委員児童委員活動を支援した。

- ・役員会(毎月)
- ・定例の会長会、理事会(毎月)
- ・民生委員大会、総会、研修会、OB会(湖風会)
- ・各専門部会(高齢者部会、児童部会、生活支援部会、障害者部会、主任児童委員部会、広報部会)ほか

・学区社協活動の運営の支援

1) 定例学区社会福祉協議会会長会議

学区社協では、地域の福祉活動を進め、実践や体験をとおして住民福祉の向上のため様々な取り組みを実施している。そこで、本会の活動方針の伝達や福祉情報の提供、さらには学区相互の交流をはかるとともに、福祉問題について協議することを重点に学区社協会長会議を開催した。定例会後にはブロックミーティングを行った。

学区社協会長会議の日程

月	種類	開催日	場所
4	定例	4月18日(木)14:00～	大会議室
5	定例	5月16日(木)14:00～	大会議室
6	事務局長合同	6月20日(金)14:30～	ホール
7	定例	7月18日(木)14:00～	大会議室
9	定例	9月19日(木)14:00～	大会議室
10	定例	10月17日(木)14:00～	大会議室
1	定例	1月9日(木)14:00～	大会議室
2	定例	2月20日(木)14:00～	大会議室



6月学区社協会長・事務局長合同会議



定例会議

1) 学区社協会長会役員会

平成29年度に会則を定め、学区社会福祉協議会会長会に関する運営事項等を定め、ブロック毎に7名選出し、会長1名、副会長6名を5月の学区社協会長会にて選任した。

	氏名	ブロック	学区
会長	柴田 隆	東 部	瀬 田
副会長	田中 英世	志 賀	小 松
副会長	徳本 勉	北 部	伊香立
副会長	河本 正雄	比 叡	唐 崎
副会長	馬場 照直	中 部	長 等
副会長	谷口 亨	中南部	富士見
副会長	橋本 紀宣	南 部	南 郷

・学区社協会長会及び研修事業

学区社協会長視察研修

日 程：令和元年11月11日、12日

視察先：1日目 岐阜市社会福祉協議会
芥見東支部

2日目 社会福祉法人
岐阜羽島ボランティア協会

参加者：29名



・ブロックごとの社協連絡会の実施

ブロック別学区会長・事務局長連絡会議の開催

隣接学区の社協が、お互いに情報交換をすすめながら、全市的に統一された組織活動へと発展するために、市内を7ブロックに分け、ブロック別に会長・事務局長の定例的な連絡会や各種の講座・研修会を実施した。

効果：ブロック連絡会や事業を通して、情報交換を行いながら、各学区社協活動の活性化につながった。

ブロック社協代表学区会長名簿（敬称略）

ブロック名	代表学区社協	会 長
志賀ブロック	小松学区	田中 英世
北部ブロック	伊香立学区	徳本 勉
比叡ブロック	唐崎学区	河本 正雄
中部ブロック	長等学区	馬場 照直
中南部ブロック	富士見学区	谷口 亨
南部ブロック	南郷学区	橋本 紀宣
東部ブロック	瀬田学区	柴田 隆

志賀ブロック社協連絡会（平成18年8月スタート）4学区社協

テーマ：地域福祉の充実～つながろう志賀の福祉のまちづくり～
（小松、木戸、和邇、小野：事務局→小松学区）

回	日時	場所	特記議題内容
1	6月4日（火）10：00	木戸支所	事業報告・決算／事業計画・予算について 共同募金街頭募金について 学区社協手引きの作成について
2	10月9日（火）16：10	和邇公民館	共同募金（街頭募金）結果について 歳末たすけあい募金封筒について 学区社協手引きの作成について 学区社協と福祉施設との勉強会懇談会について
3	3月3日（火）10：00	木戸支所	来年度事業について

第7回志賀健康いきいき祭

日 時 令和元年11月9日（土）

会 場 和邇市民体育館、和邇文化センター

参加者 566名

- 内 容
- ①健康 健康測定（血圧、握力、骨密度、血管年齢、前屈、腹筋など）
健康体操
 - ②医療 志賀日赤の健康教室
 - ③エンディング講座・在宅療養研修会
 - ④福祉用具の展示・体験
 - ⑤その他 キッズコーナー ほか



毎年楽しみにしている人、定年を初めて参加した人など、地域で定着と連携が広がっています。

学区社協と福祉施設の勉強会・懇談会①

日 時 令和元年9月20日（金）10：00～

会 場 松の浦湯治の郷



- 参加者 学区社協 7 名、福祉施設 7 名
 内 容 ・お互いの活動や施設の共有
 ・福祉制度の勉強会

学区社協と福祉施設の勉強会・懇談会②

- 日 時 令和元年 12 月 13 日(金) 10:00～
 会 場 近江舞子しょうぶ苑
 参加者 学区社協 7 名、福祉施設 6 名
 内 容 ・学区社協、福祉施設の困りごとの共有
 ・学区別懇談とコラボ事業の企画



北部ブロック社協連絡会 (昭和 42 年 4 月スタート) 7 学区社協

テーマ:「小地域における福祉活動の活性化」

～つなぐ、つながる、広がるふれあいの地域づくり～

(葛川、伊香立、真野、真野北、堅田、仰木、仰木の里 : 事務局→伊香立学区)

回	日 時	場 所	特記議題内容
1	6 月 26 日(水) 15:00	柿の里 会議室	総会(事業報告・決算、役員選出、事業計画・予算) 研修会(講師:堅田あんしん長寿相談所)
2	7 月 31 日(水) 10:30	源六(葛川)	各学区の事業紹介、情報共有



北部ブロックふれあいサロン交流会

- 日 時 令和元年 10 月 4 日(金) 13:30～16:00
 会 場 伊香立環境交流館
 参加者 57 名(ふれあいサロン代表者、学区社協役員、民児協会長 他)
 内 容 北部 7 学区で開催されているふれあいサロンの代表者どうしの交流会



堅田あんしん長寿相談所からの遊びの伝達、情報提供
 市社協より出張ボランティアや助成金の情報提供

視察研修会

- 日 時 令和元年 12 月 2 日(月) 7:40～17:00
 視察先 障害者就労継続支援 A 型
 ワークショップほのぼの屋
 参加者 37 名
 内 容 障害者が働くフレンチレストランで、地域と施設の“つながり”や障害者の就労、生活支援について学び障害者への理解を深める



比叡ブロック社協連絡会（平成12年4月スタート）5学区社協

テーマ：「やさしさと笑顔でつながる福祉の輪」

（雄琴、日吉台、坂本、下阪本、唐崎：事務局 → 唐崎学区）

回	日 時	場 所	特記議題内容
1	5月21日（火）14:00～	坂本市民センター	決算、予算、計画、テーマ、情報交換
2	9月13日（火）14:00～	坂本市民センター	先進地視察研修について 地域福祉交流研修会について 情報交換
3	12月16日（月）17:00～	琵琶湖グランドホテル	先進地視察研修の報告 地域福祉交流研修会について 情報交換

比叡ブロック社協「先進地視察研修会」

日 時 令和元年10月21日（月）8:00～15:30

視察先 社会福祉法人京都ライトハウス

参加者 38名

内 容 視覚等に障害がある方のための総合福祉施設である京都ライトハウスを視察。当事者のお話をお聞きすること、体験することで、視覚障害やその支援のあり方について理解を深めた。



比叡ブロック社協「地域福祉交流研修会」

日 時 令和2年2月7日（月）14:00～16:00

場 所 比叡ふれあいセンター 大会議室

参加者 74名

内 容 比叡ブロックにおける福祉の担い手（サロンの担い手のボランティア、福祉施設職員、民生委員児童委員、学区社協役員等）の交流会

①ボランティア実演 ②レクリエーション ③グループディスカッション



学区や分野を超えた顔の見える関係づくりに取り組んだ。今後、各主体が連携して地域福祉を推進するまちづくりにつなげていきたい。

中部ブロック社協連絡会（平成12年4月スタート）6学区社協

テーマ：さまざまな出会いの場と機会を

（滋賀・山中比叡平・藤尾・長等・逢坂・中央：事務局 → 逢坂学区）

回	日 時	場 所	議 題 内 容
1	6月5日（木）16:00～	長等市民センター 会議室	平成30年度事業報告・決算報告報告 年間テーマ、予算・事業計画
2	9月4日（水）10:00～	長等市民センター 会議室	総合防災訓練について ブロック事業について
3	12月4日（水）16:00～	長等市民センター 会議室	地域福祉講座について 先進地視察研修について
4	3月26日（木）を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で中止。文書送付とした。		

中部ブロック 先進地視察研修会

日時 令和2年2月4日(火) 8:20~17:20

研修先 ①八幡学区まちづくり協議会
②ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

内容 ①まち協設立の経緯や運営について学び、意見交換を行った。
②展覧会『滋賀県施設・学校合同企画展 ing...
~障害のある人の進行形~』の鑑賞。

参加者 41名
(社協役員、民生委員児童委員、福祉委員等)



中部ブロック 地域福祉講座

日時 令和元年9月26日(木) 10:30~12:00

会場 明日都浜大津 ホール

内容 「吹田市社協地区福祉委員会・大津市中部ブロック学区社協連絡会合同研修会」

吹田市から、本市の学区社協にあたる地区福祉委委員会が視察に来られ、ワールドカフェ形式で地域活動について意見交換を行った。

互いの地域活動や課題について情報共有する中で、共感が生まれる機会となった。



中南部ブロック社協連絡会 (平成13年4月スタート) 4学区社協

テーマ: ふれあい、つながり、輪になって、笑顔で育つまちづくり

(平野、膳所、富士見、晴嵐 : 事務局→膳所学区)

回	日時	場所	議題内容
1	6月5日(水) 10:00~	膳所市民センター 会議室	H31年 事業報告・決算報告について R元年 事業計画・予算(案)について R元年 共募街頭ボランティアについて
2	12月4日(水) 15:30~	アヤハレイクサイドホテル	テーマ ・顔の見える関係づくりから災害時の助け合いについて ・日頃の見守り活動について 大津市社協 事務局次長 山口浩次

中南部ブロック 先進地視察研修会

日時 令和元年9月24日

研修先 甲賀市信楽 勅旨地区

内容 災害時見守り(マップ)と安否確認について学ぶ

参加者 35名(社協役員、自治連合会、民生委員児童委員、福祉委員等)



ブロック連絡会



視察研修交流会

南部ブロック社協連絡会（平成 12 年 4 月スタート） 4 学区社協

テーマ：地域力を生かし支えあう福祉のまちづくり

（石山、南郷、大石、田上 : 事務局→南郷学区）

回	日 時	場 所	議題内容
1	6 月 3 日（月）	南郷市民センター	事業報告、事業計画、活動テーマ決定
2	8 月 26 日（月）	南郷市民センター	視察研修について、情報交換

南部ブロック 視察研修

日 時 令和元年 12 月 13 日（月）

行き先 兵庫県立総合リハビリテーションセンター
福祉のまちづくり研究所「福祉用具展示ホール」
（兵庫県神戸市西区曙町 1070）

参加者 27 名

内 容 テーマ：ユニバーサル社会の実現を目指して
～最先端の介護技術を学ぼう～

「展示ホール」「テクノホーム」を施設見学
した。最先端の介護機器や住宅設備を見て・
触れて・体験した。

家族や自分自身が要介護状態になったら…と
いう思いを抱き、我が事として学ぶことができた。
学区を越え 3 グループに分かれての見学は学区
間の交流の機会となった。

介護は他人事ではない。家族のこと、自分自
身の我が事として学びました。



東部ブロック社協連絡会（平成 12 年 4 月スタート） 6 学区社協

テーマ：「子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちづくりをめざして」

（上田上、青山、瀬田、瀬田北、瀬田南、瀬田東 : 事務局→瀬田学区）

回	日 時	場 所	特記議題内容
1	6 月 15 日（土）	瀬田市民センター	・令和元年度事業計画並びに収支決算（案）について ・令和元年度活動テーマについて ・困りごとアンケートの共有 ・瀬田あんしん長寿相談所・すこやか相談所より ・情報交換
2	12 月 7 日（土）	一心	・東部ブロックサロン交流会の開催について ・視察研修について ・情報交換
3	3 月 26 日（木）	明日都浜大津 4 階	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

東部ブロックサロン交流会

日 時 令和元年 12 月 14 日（土） 10：00～12：00

場 所 瀬田東市民センター

参加者 34 名

内 容 ブロック内のふれあいサロンのボランティア・学区社協・民生委員
の方を対象に、福祉施設の職員さんから施設紹介とレクリエーション指

導を受けました。また、後半は意見交換の時間を設け、サロンの運営の悩みなども共有することが出来ました。交流会を通してブロック内でのサロン同士や、施設とのつながりが生まれる機会になりました。



東部ブロックふれあいサロン交流会の様子

・ 学区社協追悼助成事業

戦争により戦死をされた方への英霊供養及び戦争の悲惨さ、平和の尊さを次の世代に正しく伝えるため、地域で行う戦没者追悼事業を実施する学区社協に対して助成金を交付した。

事業を実施した学区一覧

学区名		実施場所
1	葛川	法円寺
2	伊香立	伊香立環境交流館
3	真野	真野忠魂碑
4	堅田	海門山 満月寺 (浮御堂)
5	仰木	仰木忠魂碑前
6	下阪本	下阪本市民センター
7	中央	乗念寺
8	石山	石山寺忠魂碑／西蓮寺
9	南郷	石山寺忠魂碑／西蓮寺
10	田上	田上戦没者忠魂碑前
11	上田上	上田上忠魂碑建立地
12	瀬田北	南大萱霊園
	瀬田東	

(4) 災害時にも強い支援体制づくり

① 常設災害ボランティアセンターの充実を図ります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
非常時の被災者支援活動を円滑に進めるため、平常時から各種団体との連携を強化するとともに、ネットワークを構築し、調査・研究、訓練を継続的に行うなど、非常時にセンターの機能が速やかに発揮できるよう取り組みます。	大津市総合防災訓練において、地域の学区社協や民児協と現地災害ボランティアセンター設置を想定した訓練を実施した。また、災害ボランティア事前登録者を対象とした災害ボランティア養成講座を実施することにより、個々のスキルアップや関係づくりを推進した。	災害ボランティア事前登録者のフォローアップや新たな登録をすすめる。

② 地域の力を活かした災害時の体制づくりに努めます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
大学や企業、福祉施設等との連携を図り、人材や知識、情報などの資源を活用し、安全で安心して暮らすことができる災害に強いまちづくりを目指します。	企業や福祉施設から、それぞれが課題とする防災対策等についての講座依頼があり防災出前講座として実施した（22回834名受講）。出前講座では、災害ボランティアセンターの取り組みの紹介や災害ボランティア事前登録のお願いなども含め、災害時に連携できる関係づくりにつながった。	引き続き、防災出前講座を実施して関係づくりを進めると共に、個々の強みが災害支援につながる体制づくりを目指す。

主な事業

・大津市災害ボランティアセンター（被災者生活支援センター）

毎年繰り返される大規模・広域的な災害に対応するため、常設型大津市災害ボランティアセンターでは、平常時の取り組みでは災害ボランティア活動やセンター設置・運営する人材育成に力点を置き、災害ボランティア事前登録者の更なる確保、大津市総合防災訓練では災害ボランティアセンター設置運営訓練を大津市福祉政策課、学区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会などの関係機関と緊密な連携のもと実施するとともに、大津市社協災害対応ガイドラインに基づく職員情報伝達・安否確認訓練を定期的実施した。更に、新たな取り組みとして災害ボランティア事前登録者を対象に「災害ボランティア養成講座」や「防災出前講座」を開催して最新防災情報の提供や大津市社協事業のPR活動に努めた。

災害時の取り組みでは滋賀県社会福祉協議会からの要請により台風19号で被災された福島県郡山市災害ボランティアセンター運営支援ため職員2名を派遣した。この支援活動を通して、災害時に迅速かつ的確に災害ボランティアセンター機能を維持するためには、「行政(市福祉部局)との連携強化」、「現地サテライトの開設に伴う人材確保」、「本部と現地サテライトの停電対策の必要性」など、日頃から事前対策に取り組むことが肝要であると再認識した。

1) 災害ボランティア事前登録制度の推進

災害時のボランティア活動が迅速かつ効果的に行なえるように、災害ボランティア活動を希望する個人又は団体の事前登録を推進した。

また、事前登録制度が3年目を経過していることもあり、登録名簿の整理と登録継続の有無を含めて、現段階で災害ボランティアに関わっていただけの方の確認整理を実施した。

- 令和元年度3月末現在の事前登録者数 312名（個人：56名 団体：4団体256名）
※平成30年度3月末 273名（個人：55名 団体：4団体218名）

さらに、災害時の支援を迅速・的確に進めるため、災害ボランティア活動に対する一定の知識と技量を高めることを目的として、事前登録者を対象とした下記の講座を開催し個々のスキルアップと事前登録全体の底上げを図った。

- 令和元年度災害ボランティア養成講座（3回を1シリーズ）
（修了者：3回シリーズを全て受講した方）23名

回数	日 時	場 所	参加者	研 修 内 容
1 日 目	7 月 28 日 (土) 10 : 00 ~ 12 : 00	大津市ふれあいプラザ 大会議室	35 名	災害ボランティア活動について 講師：日本防災士会滋賀県支部 防災士 笠原恒夫 氏
2 日 目	9 月 15 日 (日) 8 : 00 ~ 10 : 30	藤尾小学校 藤尾奥町	39 名	大津市総合防災訓練内での災害ボランティア活動実践 (段ボールベッドづくり、仮設トイレ組み立て、土嚢づくり・土嚢運搬)
3 日 目	12 月 8 日 (土) 10 : 00 ~ 12 : 00	大津市ふれあいプラザ 大会議室	35 名	災害ボランティア活動に対する安全対策について 講師：滋賀県防災支援赤十字奉仕団 委員長 前田健世 氏 他 2 名



段ボールベッド
組み立ての様子



土嚢づくり・土嚢
運搬の様子



災害ボランティアの
安全対策を発表

●日本防災士会滋賀県支部の支援

災害時のボランティアセンター運営にあたり、コーディネーターや災害ボランティアの協力が必要です。当支部には、防災に関する知識を有する方が多数在籍され、災害時にはボランティアセンターの運営に多大な協力を得られるものです。平常時には、本会の災害対応ガイドラインや災害ボランティアセンター運営マニュアルにも助言をいただき防災出前講座の資料提供など、相互に支援を進めた。

2) 大津市総合防災訓練において災害ボランティアセンター設置・運営訓練を実施

例年各学区持ち回りで開催される大津市総合防災訓練で、災害時を想定した災害ボランティアセンターの開設・運営訓練を実施することにより、①災害対応ガイドライン・運営マニュアルの検証、②関係機関と協働した災害ボランティアセンターの運営、③職員のスキルアップの3つを目的に当訓練に参加した。

日 時 令和元年 9 月 15 日 (日) 7 : 00 ~ 12 : 00

場 所 藤尾小学校

参加者 訓練参加機関及び人数 51 名

中部ブロック (山中比叡平・藤尾・長等・逢坂・中央) 社会福祉協議会⑩、藤尾地区民生委員児童委員協議会⑥、龍谷大学ボランティア・NPO活動センター③、滋賀県防災支援赤十字奉仕団⑭、大津市役所福祉政策課①、職員⑰

訓練内容

班	訓練内容
本部 (総務)	ボランティアセンターの運営方針を協議
ニーズ	被災者ニーズの聞き取り
オリエンテーション	ボランティア活動へ行く前の注意事項など説明
ボランティア受付	ボランティアに来た方の受付、ボランティア保険確認

マッチング	3名のボランティアと想定ニーズをマッチング
ボランティア	ボランティア役として受付から出発までの体験



本部（方針協議）



ニーズ受付



オリエンテーション

3) 「災害ボランティア」をテーマにした出会いのボランティアカフェを開催

ボランティアセンターとの共催で活動に出会う・仲間に出会うことを目的にした「出会いのボランティアカフェ」を「災害ボランティア」をテーマに開催した。

災害ボランティアに興味があつて参加した方、すでに災害ボランティア経験のある方などお互いの知識や経験、疑問に思うことなど情報交換して、様々な災害ボランティア活動があることや被災者に寄り添った活動を展開することの必要性を共有していただいた。

また実践として、“災害ボランティアセンターを描いてみよう”をテーマに参加者同士で各班の配置やボランティアの導線を考えていただくことで、さらに災害ボランティアセンターの運営について理解をすすめていただいた。

終了後には7名の方が「災害ボランティア事前登録」をしていただくことができた。

日 時 令和元年6月16日（土）10：00～12：00

場 所 大津市ふれあいプラザ4階ホール

参加者 20名（終了後に7名が災害ボランティア事前登録）

4) 災害支援

令和元年台風第19号

本会では、常設型の災害ボランティアセンターとして、滋賀県社会福祉協議会からの派遣要請に伴い、福島県郡山市災害ボランティアセンターへ職員を派遣した。

派遣職員については、災害ボランティアセンターの運営支援を通じて、被災地の社協活動を応援するものですが、地元住民や地元社協職員の思いに寄り添いながら支援した。

●【郡山市災害ボランティアセンター】

(第1クール)

日 程 令和元年10月25日（金）～10月30日（水）6日間

職 員 岡田秀清

支援内容 現地サテライトでニーズ調査、マッチング、資機材管理など



(第8クール)

日 程 令和元年11月27日（水）～12月2日（月）6日間

職 員 丸山忠司

支援内容 現地サテライトでニーズ調査、マッチング、資機材管理など



また、今回の職員派遣経験を通じて、今後検討していく課題は以下のとおりです。

- ①現地サテライト開設に伴う人材確保および早期の被災者ニーズの聞き取り把握
- ②災害ボランティアの確保（特に平日）や資機材の整備と活用
- ③本会の停電対策、業務の優先順位、災害ボランティアセンターの費用の確保
- ④行政(市福祉部局)との連携強化

今後は、上記の内容を踏まえて、大津市社協災害対応ガイドライン・本部運営及び現地拠点運営マニュアルの見直しや体制整備につなげる。

5) 防災出前講座の実施

本会職員が講師となり学区社協や民児協をはじめ、地域の各種団体、施設などへ伺い、最新の防災情報、大津市災害ボランティアセンターの活動内容、本会の事業等を啓発することで、地域福祉の推進や各々の防災対策の一助となることを目的に防災出前講座を実施した。



令和元年度防災出前講座の回数 22回（新型コロナウイルス関連中止6回）
参加者数 834名

	講座テーマ・内容	実施日	参加人数	申込者	担当者
1	大津市社協の活動について（災害ボランティアセンター）	8月28日	23	堅田21世紀の会	丸山
2	最新の防災情報	9月7日	30	瀬田東学区学園前コミュニティ自治会	丸山 山口
3	田上の地形に生活する防災への備え	9月14日	21	田上民児協	丸山
4	災害時の備え 災害時の行動など	9月18日	14	やまびこ総合支援センター「スコラ」	丸山 岡田
5	災害への備え 災害時の避難行動、危機管理について	9月20日	20	大平保育園	丸山
6	避難所運営ゲーム（HUG）の体験	9月25日	23	カーサ月の輪	高山
7	大津市災害ボランティアセンターの役割	9月28日	55	NPO 法人フェイスフルフレンド「サテライト」	丸山
8	地域における防災	10月17日	45	おおつ福祉会	丸山 岡田
9	もしも災害が起こったら！学区社協・地区民児協・福祉委員の役割	10月19日	98	膳所学区社協	丸山 井上
10	最新の防災情報、大津市災害ボラセン概要説明、大津市社協事業説明	10月31日	25	大津西ロータリークラブ	丸山
11	防災まち歩き、防災研修	11月13日	23	瀬田四丁目自治会	丸山
12	企業防災について	11月15日	120	東近江防火保安協会	丸山
13	大雨被害の現地について	11月16日	8	ハート・イン・ハングチャリティ	高山
14	防災情報、災害への備え、災害時の避難行動について	11月24日	35	平野学区社協	丸山 井上
15	葛川地域における防災対策	12月11日	20	葛川学区自主防災会	丸山
16	防災について 高層住宅棟火災についてなど	1月18日	25	エバーグリーン鳩の浜自治会	丸山
17	防災について	1月26日	75	長等学区社協	丸山 沢本
18	身近な防災	1月30日	34	おおつ傾聴ボランティアダンボの会	高山
19	災害ボランティアセンターの活動を通じた災害ボランティア事前および大津市社協賛助会員登録のお願い	2月1日	65	大津青年会議所	丸山 山口
20	防災について	2月4日	33	ふれあいサロンやすらぎ	丸山 伊地知

21	施設の危機管理講座～いのちを守る編～	2月14日	15	中南部ブロック社協	丸山井上
22	災害図上訓練 (DIG)	2月22日	27	さくら福祉の会	丸山高山

834名

6) 職員の安否確認訓練などの実施

組織体制の変更や職員の増加などで、大津市災害ボランティアセンター(被災者生活支援センター)・大津市社協災害対応ガイドラインに明記している「災害警戒職員配備体制(発災時)」の一部修正を行い、緊急時に災害警戒職員配備体制が機能するか検証するため、地震災害を想定した職員安否確認訓練を実施した。

回数	日 時
1日目	6月30日(日)
2日目	9月2日(月)
3日目	3月11日(水)



7) 災害復興基金

市内外において発生した地震、豪雨等による災害時又は災害復興支援に伴う経費及び防災のための経費に充てる財源として積み立てしている。

災害復興基金額 18,910,401円(2年3月末現在)

・災害時助け合いネットワーク事業にかかる市との協働

1) 災害時助け合いネットワーク事業

災害時のためのネットワークの充実を図るため、日ごろの地域見守り活動の一環として、民生委員児童委員によるネットワーク台帳の推進に取り組んだ。

ネットワーク台帳登録数 令和2年3月31日現在 (件)

実人数	対象区分							
	寝たきり	認知症	独居	高齢者のみ	昼間独居	障がい	要支援	他
24,409	541	1,223	7,727	10,303	1,603	2,723	1,543	3,119

・南三陸町社協との友好協定事業

本会は平成24年9月に南三陸町社会福祉協議会と友好協定を結び、両社協において様々な形で支援および交流を続けてきた。

しかし、当協定も締結から8年が経過しようとしており、南三陸町の復旧・復興も着実に進展していることを受け、両社協で協議をしたところ、令和2年4月1日から「災害時相互応援協定」として、新たな出発をすることとなった。

また、このことを受けて、長期間借用していた「ホンダイনサイト」についても返却する。

友好協定による支援および交流事業

年 度	内 容
平成24年度	職員の長期派遣、ボランティアバスの運行
平成25年度	ボランティアバスの運行、生活支援員研修会の講師
平成26年度	ボランティアバスの運行、公用車としてインサイトの借り入れ
平成27年度	両市町での高校生同士の交流

平成 28 年度	南三陸応援団交流イベントを大津市で開催
平成 29 年度	南三陸町の美しい風景スケッチの旅
平成 30 年度	南三陸町社協理事との交流、平成 30 年豪雨災害での支援
令和元年度	災害時相互応援協定の協議、インサイトの返却

・募金型自動販売機の設置

1) 募金型自動販売機の設置

地域福祉活動の財源の一部として活用した。

本会広報ひまわりを掲示し、広報活動としても活用した。

2) 募金型自動販売機の設置状況

No.	設置場所	詳細
1	明日都浜大津 3 階	プロムナード入り口
2	市役所新館 2 階	新館 2 階の総合防災課前
3	木戸支所	市民センター内自販機コーナー
4	木戸老人福祉センター	木戸老人福祉センター広間
5	明日都浜大津 2 階	2 階ガス灯広場
6	瀬田北支所	市民センター前植え込み付近
7	瀬田東支所	市民センター右手植え込み付近
8	堅田駅前	堅田駅前駐輪場
9	晴嵐支所	市民センター道を挟んで正面
10	滋賀支所	市民センター駐車場側
11	大津聖苑	待合ロビー付近
12	大津市葬祭センター	センター出入口付近
13	志賀聖苑	待合ロビー付近
14	志賀葬祭センター	センター出入口付近

目標3) 新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり

(1) ボランティアやNPO活動の推進

① 市社協ボランティアセンターの機能の充実に努めます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
多様化するボランティアニーズに対応するため、幅広い視点や連携のもと、相談援助機能の充実やボランティアリーダーの育成など、ボランティアセンターの機能強化を図ります。	ボランティアセンター運営委員会において、ボランティア登録グループの協力を得て講座等を開催することや他機関の事業に連携していくことなど、ボランティアセンターの機能強化を図るための協議をした。 また、ボランティア活動者への情報発信を広く行えるよう、おおつボランティア情報システムを開設し運用をはじめた。	日頃のボランティアニーズから傾向や課題を整理し、ボランティア運営委員会で検討を行う。

② ボランティアやNPOとの連携の場をつくります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
地域で展開される活動は、人や団体がつながっていくほか、「思いがけない活動」や「楽しい活動」に発展していくことが期待できます。今後も、地域で活動している人や団体が活動を通じて多様な「つながり」をつくることのできるよう、連携・交流の場づくりを推進します。	生涯学習センターのボランティア指導者との合同交流会を実施。活動内容が同じグループ同士での情報共有や交流がすすんだ。 子どもを支援するNPO法人から、年間を通じて子どものボランティアを育成する事業について、ボランティアプログラムや助成金など相談を受けた。	NPO等が実施する子どもを対象にしたボランティア参加プログラムの情報を収集し、広報等で市民向けに紹介していく。

主な事業

・ボランティアセンター運営事業

1) 需給調整事業 (延べ件数)

■相談経路

項目	令和元年度	平成30年度
電話・FAX	1,871	1,424
来会	640	757
訪問	118	93
メール	240	163
その他	23	53
合計	2,892	2,490

■相談者内訳

項目	令和元年度	平成30年度
個人 男	148	181
個人 男女	293	212
小計	441	393
個人 学生	23	20
個人 勤労者	143	154
個人 シニア	264	204
個人 不明	10	9
V団体・サロン	1,311	1,077
地域団体	285	289
施設・病院	390	354
行政(包括含む)	163	115
学校	158	181
企業	82	35
他市町社協	54	42
その他	8	4
合計	2,892	2,490

■相談内容

項目	令和元年度	平成30年度
活動 一般	199	178
希望 課題	27	38
依頼 出前	662	420
依頼 イベント支援	95	92
依頼 個別支援	61	76
依頼 その他	30	25
寄付	49	53
情報提供	98	113
グループ運営	193	271
企業の社会貢献	10	8
施設のV受入・ボラセン運営	48	0
視察講師	3	9
講座	120	105
助成金	202	196
災害	116	65
ボランティア保険	698	749
その他	23	24
学校 小学校	89	103
学校 中学校	88	92
学校 高等学校	16	19
学校 大学・短大	1	0
学校 その他	4	7
合計	2,832	2,643

傾向と課題

- ・昨年度より相談件数が増えた。
出張ボランティア相談の増加は、おおつボランティア情報システムの運用により、施設からの掲載依頼や、出張ボランティア依頼が増えたことによる。
災害ボランティア相談の増加は、講座や防災訓練、台風 19 号支援への問合せがあったもの。
- ・ボランティアの高齢化は課題であるものの、レイカディア大学同窓会やおやじのたまり場、傾聴ボランティアダンボの会等それぞれの持ち味を發揮して地域福祉活動の担い手として頑張ってくださっている。

2) 啓発活動事業

社協ニュースひまわりでボランティアページ掲載

Facebook や Twitter、社協ホームページ掲載

平成 31 年 4 月 1 日より検索サイト「おおつボランティア情報」を大津市社協ホームページに開設し、運用を始めた。

3) 発掘・登録・育成事業

① ボランティア登録

ボランティア活動への参加促進のための情報提供や活動紹介、交流・研修等の活動支援を行うことを目的として、ボランティアグループの登録を促進した。

今年度より、ボランティアグループ等の情報を検索できるサイト「おおつボランティア情報」を開設するにあたり、グループの登録情報を更新するとともに、「ボランティア募集」、「イベント・講座・研修」等の情報も提供を受けて掲載する等、新たな参加者を増やす体制づくりに取り組んだ。

- ・グループ登録 186 団体 (平成 31 年度新規登録 36 グループ)

② 大津市ボランティアセンター登録グループ合同交流会の開催

今年度は生涯学習センターと共催し、生涯学習センターのボランティア指導者登録者と本会の出張ボランティア登録者を対象にして、合同交流会を開催した。

生涯学習のボランティアと出張ボランティアの交流ではあるが、参加者どうし共通の話題があり、コラボしての活動が生まれるきっかけとなった。

日 時 令和 2 年 2 月 28 日 (金) 13 : 30 ~ 15 : 30

場 所 生涯学習センター 4 階視聴覚室

参加者 36 名 (生涯学習ボランティア指導者 10 名、出張ボランティア 18 名、
生涯学習センター職員 4 名、市社協 4 名)

内 容 ・講演：「地域活動の事例と地域に喜ばれる演出メニュー」

講師：滋賀県南京玉すだれ保存会

会長 待コミュニケーションズ 待 文麿呂氏

- ・グループの活動紹介



講師 待 文麿呂氏



南京玉すだれの体験も！

③おおつボランティア情報システムの運用

ボランティア活動をはじめたい方、ボランティアに援助をおねがいしたい方、地域団体・グループなどにいつ・どこで・どんな方とどんな活動を行っているのかなど情報が分かるよう、効果的な情報発信や相互をコーディネートするための「ネットワーク」作りを進めるため、当システムを構築し、4月より運用を開始した。



4) 講座・研修・組織化事業

①出会いのボランティアカフェの開催

ボランティアを始めてみたい方を対象に、毎回テーマを設定し、ボランティアグループの“活動紹介”と“体験”をメニューに組み入れつつ、参加者どうしがカフェ形式で情報交換しあえるばとしてこの事業を行った。

ボランティアに出会い、仲間と出会う地域福祉活動の第一歩と位置づけ、既存のグループに参加し定着された方もあり、グループの活性化にも良い影響を与えている。

- ・対象：ボランティアを始めたい方・活動をしている方、興味関心のある方 等
- ・場所：明日都浜大津 4階ふれあいプラザホール
- ・内容：ボランティアグループの“活動紹介”と“体験”
カフェ形式による情報交換・相談

日程	テーマ	参加者
5月21日(火)	傾聴ボランティア	20名
6月16日(日)	災害ボランティア	20名
7月16日(火)	聴覚障害と手話ボランティア	25名

- ・登録グループによるボランティアカフェへの協力
大津ろうあ福祉協会、手話サークル、傾聴ボランティアダンボの会、堅田おしゃべりボランティア
- ・成果：5月の受講者のうち4名が傾聴ボランティア養成講座に参加を希望した。
6月の受講者の内、7名が災害ボランティアセンターの事前登録をされた。
7月のカフェでは、グループごとの交流で、聴覚障害者から直接、手話を教えてもらう場面もあり、満足度が高かった。



・ ボランティア保険加入窓口の設置

ボランティア活動保険

・ Aプラン	5,889 人 (平成 30 年	6,449 人)
・ Bプラン	376 人 (487 人)
・ 天災 Aプラン	284 人 (239 人)
・ 天災 Bプラン	89 人 (124 人)
ボランティア行事保険	1,154 件 (1,473 件)
福祉サービス総合補償	53 件 (51 件)
送迎サービス補償	0 件 (0 件)
※保険事故報告件数	26 件 (21 件)

保険料の助成事業が終了したため、加入数が減少した。

・ 民間団体助成金推進事業

ボランティアグループや市民活動団体が、新たな事業の推進や展開が図れるよう、民間団体による助成事業の広報や助成に伴う相談支援を行った。

また、社会福祉協議会の推薦が必要な助成事業で、本会が推薦した助成事業と交付決定状況は下記のとおりである。

助成金の内訳	推薦件数	決定件数
第 35 回「老後を豊かにするボランティア活動資金」助成 みずほ教育福祉財団	4	3
2019 年度公益財団法人大阪ガスグループ「高齢者福祉助成」	12	10
損保ジャパン「住民参加型福祉活動資金助成」	1	0
大和証券福祉財団「令和元年度ボランティア活動助成」	3	0
大和証券福祉財団「令和元年度子ども支援活動助成」	1	1
2019 年度しがぎん福祉基金	10	
合 計	31	22

・ ボランティアグループ、NPO、市民活動センターとの連携

ボランティアの調整をしている機関との情報共有や各機関が主催する事業に参画してボランティアセンターのPRを行うと共に、相互に広報などに協力するなどボランティアや市民活動を推進した。

1) 連携機関が実施する事業への参画

① 滋賀県レイカディア大学「地域活動体験学習」に関わる支援

例年、レイカディア大学の受講生を対象に、体験学習説明会を開催し、体験の受け入れ先を紹介・調整してきたが、今年度は新型コロナウイルスへの対応で、体験学習の実施が令和 2 年度に延期となった。

② ボランティア体験会(滋賀県生涯現役促進地域連携協議会主催)

地域活動へのシニア世代の参加を促すために滋賀県生涯現役促進地域連携促進協議会が開催した「ボランティア体験会」に、講師と体験グループの調整の役割で協力した。

協 力：地域福祉サポーターとんかち、ケアクラフト 002、布絵本さえずり



ケアクラフト 002 リーチャーづくり



布絵本さえずり しおりづくり

③おおつ障害者週間「ほかほかまつり」実行委員会への参加

当日の運営スタッフとして大津ひまりんの着ぐるみと職員2名参加

日 時：令和元苑 10月7日(月)13:00~14:30

会 場：市立障害者福祉センター、市立におの浜ふれあいスポーツセンター

④労福協まつりでの共同募金活動啓発

日 時：令和元年 12月15日(日) 11:00-15:00

場 所：大津市勤労福祉センター

内 容：共同募金の啓発



「寄付をしてわたがしをつくってみよう」募金額 6,310円

⑤市町社協ボランティアコーディネーター連絡会議

日 時：令和元年 5月27日(水)

会 場：県立長寿社会福祉センター 介護実習室

参加者：県内ボランティア担当者(大津市社協より1名)

内 容：ボランティア保険の説明

各社協の取り組み紹介

グループワーク

・ボランティアセンター運営委員会の開催

大津市ボランティアセンター運営委員会

多角的な視点から市内のボランティア活動を取り巻く現状を把握し情報を共有することでボランティアセンターの適切な運営に活かしていくため、大津市ボランティアセンター運営委員会を開催した。

令和元年度は、委員の任期満了のため、新たな委員の選出をした。

1) 委員名簿 任期：平成29年11月～令和元年11月 (敬称略)

No.	選出区分	氏名	所属団体等
1	学識経験者	筒井 のり子	龍谷大学
2	学区社会福祉協議会役員	戸知谷 俊治	平野学区社会福祉協議会会長
3	学区社会福祉協議会役員	亀井 須美枝	藤尾学区社会福祉協議会会長
4	ボランティア市民活動団体関係者	松井 佐彦	おやじのたまり場代表
5	ボランティア市民活動団体関係者	金山 幸子	おおつ傾聴ボランティアダンボの会事務局長
6	福祉施設関係者	山本 和彦	高齢者総合福祉施設 桐生園
7	企業・団体関係者	元田 栄三	株式会社まちづくり大津取締役・事務局長
8	教育関係者	山本 晃弘	大津市教育委員会 学校教育課
9	学生	頼田 翔平	龍谷大学ボランティア・NPO活動センター代表
10	労働者福祉団体関係者	内海 善夫	大津地区労働者福祉協議会
11	関係行政機関	高橋 直樹	大津市福祉子ども部 福祉政策課

任期：令和元年11月～令和3年11月 (敬称略)

No.	選出区分	氏名	所属団体等
1	学識経験者	筒井 のり子	龍谷大学
2	学区社会福祉協議会役員	亀井 須美枝	藤尾学区社会福祉協議会会長
3	学区社会福祉協議会役員	山口 寿津子	堅田学区社会福祉協議会会長
4	ボランティア市民活動団体関係者	松井 佐彦	おやじのたまり場代表
5	ボランティア市民活動団体関係者	金山 幸子	おおつ傾聴ボランティアダンボの会代表

6	福祉施設関係者	山本 和彦	高齢者総合福祉施設 桐生園
7	企業・団体関係者	元田 栄三	特定非営利活動法人大津曳山連盟理事長
8	教育関係者	山本 晃弘	大津市教育委員会 学校教育課
9	学生	頼田 翔平	龍谷大学ボランティア・NPO活動センター代表
10	労働者福祉団体関係者	内海 善夫	大津地区労働者福祉協議会
11	関係行政機関	高橋 直樹	大津市福祉子ども部 福祉政策課

2) 役員会の開催

委員会を開催するにあたり、当日の議題などを協議するため役員会を開催した。

- ①令和元年6月17日(火) 13:00-14:30
- ②令和元年8月26日(月) 15:00-16:30
- ③令和元年11月5日(月) 15:00-16:30
- ④令和2年2月7日(水) 10:00-11:30

3) 委員会の開催

第1回 日 程 令和元年6月25日(火) 15:00～17:15

会 場 明日都浜大津5階 大会議室

- 内 容
- ・助成金申請内容の審査・決定
 - ・基金の満期に伴う買い替え
 - ・テーマトーク 「学生の参加について」
センター運営委員会と龍谷大学ボランティア・NPOセンター学生スタッフとの情報交換の提案があった。

第2回 日 程 令和元年11月29日(金) 15:00～17:00

会 場 明日都浜大津5階 中会議室

- 内 容
- ・基金の一部買い替えについて
 - ・災害ボランティアの対応について
「郡山市社協への職員派遣について」
 - ・事業中間報告について
 - ・グループ討議「令和2年度に向けて」

第3回 日 程 令和2年2月26日(木) 13:30～15:00

会 場 明日都浜大津5階 中会議室

- 内 容
- ・令和2年度事業計画(案)について
 - ・令和2年度「ひろげようボランティア」助成金募集要項(案)について



ボランティアセンター運営委員会の様子

・ ボランティア基金運営事業

大津市における地域福祉の向上を目指して福祉活動にかかわるボランティアグループの自主的で継続的な活動を育成・助長するため、安定した財源を確保することを目的として、「大津市ボランティア基金」を設置している。

ボランティア基金は「ボランティアセンター運営委員会」において管理運営しており、基金の運用益を活用して、ボランティア活動の発展・ボランティアグループの育成につなげている。

令和元年度は昨年度に引続き、新たなボランティア活動者の参加を促進するため、ボランティアグループや社会福祉施設などが行う、地域住民やボランティア活動に興味関心のある方などを対象にした講座・研修・イベント等にかかる費用を助成する「ひろげようボランティア助成金」を実施した。

1) ボランティア基金額

令和元年度末現在 130,000,000 円

2) ボランティア活動充実積立金

令和元年度末現在 13,987,507 円

3) ひろげようボランティア助成金

申請グループ 4 グループ

助成決定グループ 4 グループ

「新たな会員を迎えることができ、グループに活気ができた」など、良いきっかけとなった。

グループ名		事業名	助成額
1	布絵本さえざり	布絵本さえざりボランティア養成講座	50,000
2	大津市介護家族・要介護者を支える会	支える会「介護カフェ」	50,000
3	ケアクラフト〇〇2	心のこもった会員募集教室	50,000
4	異オネットワーク	セミナー「発達障害を知る」の開催と交流会	50,000
合 計			200,000

(2) 新しい参加者を巻き込んでいく取り組みの推進

① 退職シニアの参加促進を図ります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
ボランティアなどの地域福祉活動に興味を持ちながら実践に結びついていない市民を掘り起し、サラリーマンや団塊・シニア世代が、地域福祉の担い手として活躍できるよう、参加機会の拡充や継続的な支援を充実します。	退職シニア男性を対象に昨年度に引き続き、地域福祉担い手養成講座「おやじ塾」を開催した。また、昨年度の受講者の同窓会を開催した。 地域で活躍している男性を紹介し、退職シニア男性の社会参加を促すリーフレット「おやじの連絡帳 vol.4」を作成した。	講座の参加者が継続して社会参加ができるよう支援を充実する。 リーフレットを引き続き作成し退職シニアの社会参加を促す。

② 若者の参加促進を図ります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
中高生や大学生などにボランティア活動や地域活動に参加する機会を提供するとともに、地域への愛着を醸成するなど、まちづくりの活性化を目指します。	学区社協が実施する寺子屋や学区社協行事に、卒業生や現役の中学生がボランティアとして関わっている。(皇子山中学) 学校が実施する人権講座やボランティア体験に障がい当事者の講師を紹介するとともに、授業の企画段階から福祉教育についての相談に対応した。	地域や施設でのボランティア活動に見える化(活動場所や時間、活動内容など)することで、地域の若者を活動しやすいことについて情報提供を行う。

主な事業

・ふれあいフォトコンクール開催事業

地域住民がコミュニケーションを深め、ふれあいの輪を大きく広げ、お互いに助け合い支え合う地域社会の実現を目的とし「ふれあい」をテーマに第35回ふれあいフォトコンクールを実施した。今年度は、青春21文字メッセージとコラボして、新たに電車と人や自然、青春を感じさせる場面などの写真「電車と青春部門」を設けた。

また、ふれあいフォトコンクールの入賞作品を掲載した「ふれあいフォトカレンダー」を作成し、市内の福祉施設への配布や高齢者の見守り活動等に役立てられた。

なお、昭和60年から継続し実施してきたふれあいコンクールは、応募者の固定化や肖像権の問題等により第35回を持って終了する。

応募作品 321点(一般部門225点、子育て部門79点、電車と青春部門17点)
 応募者数 109名(市内48名)
 審査会 9月6日(金)

◇入賞作品

【一般部門】

推 薦 大津市社会福祉協議会長賞

作品名 「ハッケイヨイヤー」
 住 所 大津市(瀬田)
 氏 名 鳥飼 富彦 氏



特 選 大津市長賞

作品名 「語り」
 住 所 大津市(晴嵐)
 氏 名 藤堂 裕子 氏



特 選 大津市民生委員児童委員協議会連合会長賞

作品名 「絆と共に」
 住 所 守山市
 氏 名 寺田 洋一 氏



特 選 南三陸町社会福祉協議会長賞

作品名 「何かいる！」
住 所 京都府
氏 名 深井 征子 氏



特 選 滋賀県写真連盟会長賞

作品名 「よく見えるよ」
住 所 草津市
氏 名 小藏 武三 氏



特 選 大津写真連盟会長賞

作品名 「世代間のふれあい」
住 所 兵庫県
氏 名 明野 敏行 氏



準 特 選 滋賀県社会福祉協議会長賞

作品名 「夏休み」
住 所 鹿児島県
氏 名 山田 宏作 氏



準 特 選 滋賀県共同募金会長賞

作品名 「天までとどけ」
住 所 香川県
氏 名 斉藤 延子 氏



準 特 選 明日都浜大津賞

作品名 「早春を駆ける」
住 所 岡山県
氏 名 中地 稔 氏



【電車と青春部門】

電車と青春優秀賞

作品名 「由良川の夏休み」
 住 所 大阪府
 氏 名 金岡 明光 氏



表彰式

日 時 令和元年 11 月 9 日（土）14：00～15：30
 会 場 ふれあいプラザ 4 階ホール
 内 容 一般部門（推薦、特選、準特選、入賞、ふれあい賞）、子育て部門（ゆめっこ賞）、両部門（ひまわり賞）、電車と青春部門（電車と青春優秀賞、電車と青春賞）の表彰・記念品等の授与を行った。後半は、南三陸町社協の三浦局長と吉田氏から、震災後の現状等についてお話をいただいた。



表彰式の様子

（3） 地域で活動している人や団体の新しいつながりづくり

① 学区社協地域福祉活動計画作成を通してつながりを広げます

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
学区社協や地域で活動するさまざまな団体、福祉関係者などの参加により、地域の問題解決や活動のさらなる発展を図るため、全学区での地域福祉活動計画の策定を目指します。また、策定過程で学区内の課題を共有し、地域福祉活動への参加の拡大を目指します。	地域福祉活動計画（学区社協の手引き）の作成するにあたり、地域の各団体や住民との懇談会を通して、地域内の課題を学区全体で共有することができた。また、課題に対して具体的な対応策や活動の提案も出た。	全学区での地域福祉活動計画（学区社協の手引き）作成をすすめる。

② 社会福祉施設・団体・事業所との連携を図ります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
地域福祉の実践に取り組む社協には、新たな福祉ニーズに積極的に取り組むことが期待されています。特に、支援を必要としている人と支援者、また、団体と団体等を調整し、つなぐ役割が求められていることを重視し、社会福祉施設・団体・事業所との連携を推進します。	140 の福祉施設が施設連絡会をとおして、分野を超えたつながりづくりが進んだ。 特に、保健福祉ブロック単位で年間数回連絡会を開催し、制度の勉強会や、課題の共有を行った。 また、災害時などの備蓄品の共有なども行い、緊急時の支援体制も構築した。	会員の拡大を目指すとともに、引き続き、施設同士の顔の見える関係づくりを進める。また、福祉施設と地域、団体との連携の場もつくる。

主な事業

・歳末たすけあい募金配分事業

市内社会福祉施設配分状況

施設数	80 施設	(平成 30 年度	79 施設)
金額	1,260,000 円	(〃	1,200,000 円)

※令和元年度は、施設へのお見舞金にあわせて歳末ふれあいフォトカレンダーを作成し、各施設へ配付した。

・牛乳パック収集事業

本会においては、牛乳やお茶、ジュース用の飲料用紙パックの収集と運搬について、大津市（廃棄物減量推進課）と委託契約を締結し、障がい者福祉事業所に再委託する形で事業を実施した。

しかし、回収業務を再委託することが法律に抵触してしまうとのことにより、令和 2 年度から各障がい者福祉事業所と大津市（廃棄物減量推進課）が直接契約することで、収集業務を継続していくこととなった。

1) 障害者福祉作業所及び年間運搬量

障害者福祉事業所	令和元年度運搬量(kg)	平成 30 年度運搬量(kg)
S e l p れもん会社	4,120	4,900
ノエルしごとの家	2,020	1,830
さくらはうす	900	900
若鮎の家	1,080	1,420
社会就労センターあおぞら	980	870
合 計	9,100	9,920

・HANA-WAプロジェクトへの協力

PCR（＝ペットボトルキャップリサイクル）作業所連絡会と淡海フィランソロピーネットが協力して行っている、ペットボトルキャップから再生されたプランターに花を植えてリースし環境美化を図る「HANA-WAプロジェクト」に協力している。

プランター（7 台）の前に大津市社協を啓発する表示用看板を設置することで、啓発にも活用している。

（４） 地域福祉を協働で進める取り組みの推進

① 社会福祉法人との連携と支援に取り組みます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
支援が必要な高齢者や障害のある人、子育て家庭等へ、適切な支援策を見出すため、市内社会福祉法人とのネットワークを構築します。また、地域支援と専門支援を融合した多職種間による地域福祉推進力の拡大を図ることにより、新しい日常生活支援のあり方を検討します。	地域の課題に対して、社会福祉施設が地域や関係機関と連携し、課題解決を進めた。子どもの居場所づくりやかぎ預かり、お仕事体験会など、社会福祉施設が地域の社会資源の一つとして認知された。	地域課題を福祉施設に伝え、実践されるように、戦略的に働きかける。

② 大学との連携を図ります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
大学との連携・協働の機会を充実するため、学生や市民が活動情報の取得や相談等を気軽にできるよう、大学との連携の強化を図ります。	・ 大津市総合防災訓練への参画や、災害ボランティア養成講座の受講を要請した。	ボランティアセンター運営委員会で龍谷大学の学生ボランティアとの情報交換を実施する（令和2年6月予定）。 学生のボランティア活動参加を促進するため、地域や施設の受け入れ先を紹介するパンフレットを作成する。

③ 企業などとの連携による取り組みを進めます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
団体や関係施設が、企業の社会貢献活動の展開や地域福祉活動に参画できるよう、民間活力と連動した地域福祉の推進を図ります。	滋賀県生涯現役促進地域連携協議会が開催したシニア層を対象とした「ボランティア体験会」の実施に向けた企画の相談や当日の支援とともに、ボランティア活動団体を紹介した。 企業からボランティア・市民活動の発表の場の提供について相談があり、ボランティアグループを紹介した。	企業や福祉施設などの社会貢献活動の具体例を紹介する。

主な事業

・ 大津市社会福祉協議会施設連絡会について

大津市社会福祉協議会施設連絡会では、①分野を超えた横断的なつながりづくり、②地域における公益的な取組及び地域と連携した取組みの実施を目指し、保健福祉ブロックごとの活動を軸に、お仕事体験会やかぎ預かり事業、フリースペースの支援など、地域ニーズに合わせた各種事業を展開しました。

また、平成31（2019）年度に3年目を迎えた施設連絡会は、初めての役員改選を行い、新たな幹事での幹事会や保健福祉ブロックごとの連絡会をとおして、会員施設同士の情報共有や交流を推進してきました。特に、昨年度から継続している生活困窮やひきこもりの方の「お仕事体験会」や地域のひとり暮らし高齢者等のかぎを施設で預かることで緊急時の安心を確保する「かぎ預かり事業」などの拡充を進めました。

さらに、地域との連携を進めるために、学区社会福祉協議会との勉強会や懇談会を実施したり、災害の研修会を協働で開催したりと、具体的な活動の実践も行われました。

◎施設連絡会役員

会 長：前阪良憲氏（特別養護老人ホーム真盛園園長）

副会長：白杉滋朗氏（NPO法人おおつ「障害者の生活と労働」 協議会 事務局長）

副会長：西山英男氏（わかば保育園園長）

幹 事：杉立隆一氏（母と子の家しらゆり施設長）

幹 事：日比晴久氏（特別養護老人ホームカーサ月の輪施設長）

会員施設状況 (R2. 3. 31 現在)

分野別

分野	施設数	
	(H31)	(H30)
高齢	45	43
障がい	48	45
児童	7	5
保育	36	33
その他	4	4
合 計	140	130

ブロック別

ブロック	施設数	
	(H31)	(H30)
志賀	11	10
北部	15	14
比叡	29	29
中部	20	19
中南部	22	21
南部	14	11
東部	29	26
合 計	140	130

1) 総会の開催

- 日 時 平成 31 年 4 月 15 日 (月) 14 時～17 時
 場 所 明日都浜大津ふれあいプラザ 4 階 ホール
 議 事 平成 30 年度事業報告 (案) について
 平成 31 年度事業計画 (案) について
 役員改選について
 研修会 講演『施設連絡会の意義と役割』～吹田市社協施設連絡会の実践～
 講師 吹田市社会福祉協議会 事務局長 広田 倫久 氏
 シンポジウム コーディネーター 佛教大学 金田 喜弘氏
 シンポジスト 吹田市社会福祉協議会 事務局長 広田 倫久 氏
 大津市社会福祉協議会 事務局次長 山口 浩次
 参加者 40 施設 42 名



2) 幹事会の開催

回数	日 時	内 容
1	6 月 24 日 (月) 10 : 00～	<ul style="list-style-type: none"> ・会員状況について ・総会の報告について ・副会長の選出について ・令和元年度 事業の推進について
2	10 月 29 日 (火) 13 : 30～	<ul style="list-style-type: none"> ・会員状況について ・施設連絡会ブロック会議について ・お仕事体験会の受入れ状況について ・施設連絡会ネットワークシステムについて ・台風 19 号の支援状況について ・令和 2 年度総会について
3	1 月 14 日 (火) 13 : 30～	<ul style="list-style-type: none"> ・会員状況について ・令和 2 年度総会について ・各分野からの情報提供
4	3 月 24 日 (火) 13 : 00～	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度事業報告 (案) について ・令和 2 年度事業計画 (案) について ・令和 2 年度総会、研修会について

3) ブロック施設連絡会の開催

ブロック	主な内容
志賀	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時等の施設間連携リスト（災害時連絡表）の更新 ・福祉学習のための施設紹介冊子の発行と学校への配布 ・学区社協と福祉施設との勉強会・懇談会の開催
北部	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時等の施設間連携リスト（災害時連絡表）の更新 ・福祉学習のための施設紹介冊子の発行と学校への配布 ・お仕事体験会の実施 ・かぎ預かり事業の実施
比叡	<ul style="list-style-type: none"> ・夕方から夜の子どもの居場所づくり事業「フリースペースしんせい」の実施 ・お仕事体験会の実施 ・かぎ預かり事業の実施
中部	<ul style="list-style-type: none"> ・お仕事体験会の実施 ・生活困窮者、ひきこもりの方の当事者サロンとの連携
中南部	・防災研修会の実施と学区社協との連携
南部	<ul style="list-style-type: none"> ・制度・分野を越えた勉強会の実施 ・地域との連携事業の検討
東部	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいサロン交流会への参画 ・かぎ預かり事業の検討

4) 啓発事業

(1) 福祉施設を対象に大津市社協施設連絡会（組織構成会員）加入の促進（新規 10 施設）

5) 会員施設の連携・情報共有

(1) 施設連絡会ネットワークシステムの活用

施設連絡会会員施設同士の情報共有や情報発信などをスムーズに行うため、平成 30 年度に構築したシステムを活用しました。

項目	件数
お知らせ	18
ニュース	5
会議案内	10
災害	1
その他	1
あげる	10
レンタル	1
合計	46

「お知らせ」では、助成金や詐欺防止啓発、研修会の案内などに活用。
「あげる」では、企業や行政、地域からの寄付物品を共有しました。

(2) ニュースレターの発行（1回）

6) 生活困窮者やひきこもりの若者の社会参加と就労支援

平成 30 年度、中部ブロックを中心に取り組みが始まった『お仕事体験会』を、平成 31 年度は市内全域に登録施設を拡大し実施した。

日頃、家族以外とは交流がなく、人とかかわるのが苦手な参加者が多いが、自分から進んであいさつをし、わからないことは質問ができたり、最初は硬い表情だったが、作業後は明るい表情になり、施設長とも笑顔で会話する様子も見ることができた。

参加者からも、「作業によって自分の気持ちが変わることに気付いた」「立っているのは疲れたけれど、作業をやり切れることが出来て達成感があった」「汗をかいて疲れたけれど、仕事をした後の疲れなので気持ち良かった。またやりたい」との感想もあった。

受け入れた施設からは、「すごく丁寧にしてくれた」「良かったら働きに来てくれたらいいのに」と評価の声をいただいた。

人とかかわること、褒められること、感謝されることなどの経験を積みながら、自己肯定感の向上を目指す。

- 【実施回数】 15 回
- 【受入れ施設数】 9 施設
- 【参加者総数】 30 名
- 【参加者実人数】 16 名
- 【就労決定】 8 名
- 【登録施設】 24 施設

	受入れ施設	体験例	参加者
1	長等ほたるの家	お土産用箱作り	1
2	大津市社会福祉協議会	封筒へのラベル張り、バッチの袋詰め、封入作業他	9
3	ワークショップさかもと	箱折り	1
4	しえんからさき	作業室内清掃、検尿キットの作成	1
5	美輪湖マノーナファーム	サラダほうれん草の下葉取り、根切り作業	1
6	みどり園	折り鶴の仕分け	1
7	美輪湖マノーナファーム	サラダほうれん草の定植作業	1
8	ワークショップさかもと	箱折り	1
9	大津市社会福祉協議会	お仕事体験報告会	4
10	美輪湖マノーナファーム	サラダほうれん草の下葉取り、根切り作業、定植作業	1
11	よいこのもり保育園	落ち葉の清掃	2
12	滋賀保護院	清掃作業	1
13	大津市社会福祉協議会	書類のゴム印押し、ミシン目入れ	3
14	イロハニトイロ	布マスク製作作業	1
15	大津市社会福祉協議会	チラシのシール貼り	2
合計	9 施設 15 回		30 名



7) 地域における支援を必要とする子どもたちの居場所を施設につくる『フリースペース』の実施

支援を必要とする子どもの夕方から夜の居場所づくり事業「フリースペース」を平成 31 年度は 4 か所で実施。

子どもたちにとっては、宿題をする、お風呂での身体の洗い方、食事の仕方、手洗いの習慣など、家庭でできない生活体験をフリースペースで積み重ね、成長している。

また、不登校の児童については、唯一の家族以外の社会とのつながりの場であり、本人確認の場として、学校や行政にとってもなくてはならない活動になっている。

支援する側の体制も強化するために、関係者の研修交流会を企画し、実施施設同士の情報交換や行政との連携構築を行った。また、学生ボランティアとの勉強会を行い継続的な活動支援を呼びかけた。

【実施体制】 管理者：施設職員
 スタッフ：施設職員、施設連絡会会員、地域住民、
 大学生ボランティア ほか

【連携機関】 学校、大津市子ども家庭相談室、NPO、県社協、市社協

実施施設	開催回数	子ども総数	子ども実人数	スタッフ総数
カーサ月の輪	41	100	5	115
時の奏	44	88	2	105
近江舞子しょうぶ苑	39	39	1	89
真盛園	32	64	2	102

※3月は新型コロナウイルス感染症の影響で中止。



8) 地域のひとり暮らし高齢者等のかぎを施設で預かることで緊急時の安心を確保する『ずっとあんしんかぎ預かり事業』の推進

ひとり暮らし高齢者などの自宅の鍵を預かることで、自宅で安心して暮らし続けられることや孤独死などの事故を予防することを目的に「ずっとあんしんかぎ預かり事業」を実施した。

平成31年度は、新たに桐生園で事業をスタートしました。かぎ預かり実績としては、3名の高齢者と契約し、かぎを実際に施設で預かった。ご本人からもご家族からも、「もしもの時の安心につながる」と喜びの声もあり、民生委員児童委員からは「見守る側としても、福祉施設と連携できると心強い」とのこと。

また、かぎ預かり事業をきっかけに、一つの地域では見守りの機運が高まり、地域団体や福祉施設、警察、消防等と見守り会議を立ち上げ、学区全体で見守りを通した安心・安全なまちづくりが進んでいる。

◎実施福祉施設

1	2	3	4	5	6
真野しょうぶ苑	福寿荘	夕照たまのうら	長等の里	やすらぎの郷	桐生園



9) 災害に関する取組み

近年、頻発する災害に対して、防災対策は福祉施設だけでなく、地域にとっても喫緊の課題となっている。ブロック内の福祉施設全体で災害備蓄品や緊急連絡先を一覧化し、もしもの時の助け合いの仕組みを作った。

また、災害をテーマにした研修会を、地域（学区社協）と共同で開催することで、施設、地域それぞれの学びだけでなく、お互いの連携のきっかけになった。

この研修会を通して、福祉施設からは「学区社協や地域と連携するきっかけになり良かった」、地域からは「防災は住民だけで考えていたが、福祉施設も地域の大きな社会資源であることを改めて認識できた」との感想があった。

・ 大津市議会と大津市社会福祉協議会・大津市民生委員児童委員協議会連合会 意見交換会

市社協の活動状況などを市議会議員の皆様にご理解いただくとともに、本会の活動を通じた課題を市議会の皆様と共有することにより、市民福祉の一層の充実を図ることを目的として、意見交換会を開催。

日 時：令和2年1月28日（火）13時30分～15時30分

場 所：ふれあいプラザ ホール

参加者：大津市議会議員 36人

大津市社協・大津市民児協連 11人

大津市社協職員

内 容：大津市社協の取り組み報告

意見交換・発表（グループワーク）

- ① 生活困窮者支援、相談事業
- ② 地域支援事業
- ③ 権利擁護支援
- ④ ボランティア支援
- ⑤ 子育て支援、学習支援
- ⑥ ひきこもり支援
- ⑦ 地域での見守り活動

・ 自治連・民児協連・共募・社協役員連絡会

日 時：令和元年9月2日 16:00～

場 所：琵琶湖ホテル ホワイトの間

参加者：市自治連5名、市民児協連6名、市社協5名、市共募1名

市行政6名、市社協事務局6名

内 容：話題提供

- ① 「地域共生社会」の実現に向けて
- ② 「ご近所助け合い体験ゲーム」の体験
グループ懇談会